

御受持下さいまして、先日佐藤女學校での會合でもいろ／＼御骨折願ひました。中學校は第一中學校長の西村房太郎先生に御骨折を願つて居ります。又實專學校は東京府立工藝學校長近藤榮助先生に、女子專門學校は泉先生にお願ひして、その他は前申しましたやうに事務所の手で致して居ります。

以上の他公德運動や都市美の問題等が打合せの題目となつたが、各團體はその機關誌を利用し又は機會を捕へて各會員に會議の趣旨、贈金の應募を宣傳することを承諾せられた。そして森川滉氏の提案により機關誌の原稿は、世界教育會議に關する各種の問題や、いろ／＼の報告やを二頁以内に要約し、事務局に於て印刷の上、各團體の機關誌編輯者に送付する事に決定された。

かくて贈金募集は本格的に進捗する事となつたが、同年三月には早くも、委任統治領である南洋群島からはる／＼赤誠ある贈金の送付に接した。南洋群島教育會は本會加盟の教育團體ではないのであるから、教育會として義務負擔の責任がないのであるが、會議の趣旨に賛同して金五十圓の贈金を行ふと同時に、全島の教職員に對し贈金應募方の勧誘に盡力した。その結果遠隔な土地柄であるに拘らず、サイパン島、ヤップ島、トラック島、バラオ島、ボナベ島、ヤルト島の各學校教職員から、いち早く送金があつた事は事務局を感激せしむるものがあつた。又朝鮮教育會も本會加盟の團體でないのであるが（會議後に於て本會に加盟された）、朝鮮に於ける事情は内地同様の募集方法に準據し能はざる事情があるからと云つて、同會會計中より教育者贈金として金五百圓の贈出を行つた。この外臺灣教育會も島内小中學校教職員は、臺灣人教員が三割六分強を占めてゐて、内地と同様の取扱は困難であるから、教育會の方の會計に於て負擔すると云つて、金五百圓の贈金を行つた。臺灣教育會は本會々員たる教育會ではあるが、教育會としては教育團體贈金として金五十圓を贈出せるのみならず、小中學校教員の贈金として多額の贈出を行つたこと

は、南洋群島教育會及び朝鮮教育會と共に、如何に本會議を支援したかと云ふ事を證する事實である。

外地に於て右の如くであるから、内地に於ける募集も從來の例を破つて好成绩を収め、會議費收入として收入しない一割の手數料を合せ總額七萬二千五百九十四圓十二錢の贈金となつた。贈金した教職員の正確なる數は不明であるが優に二十五萬人の多きに達してゐるものと看做されるのである。しかして今回の募集中特に目立つてゐるのは教育會が從來行つた寄附募集に参加しなかつた專門學校以上の教職員の贈金が相當多額に上つてゐることである。一例として、東京府内の贈金は總計六千四百二十圓七十七錢であるが、この中專門學校以上の教職員の贈金は七十二圓千四百二十八圓七十四錢であつて、總額の約二割二分五厘となつてゐるのである。

第四節 會 費

本會議の参加者は、外國から千人以上、國內から千五百人以上と云ふ目標で開催されたものであるから、會費の收入も右の基準によつて豫計せられたのである。外國側千人に對し一人五弗即ち當時の換價として十七圓であるから一萬七千圓、國內側千五百人に對し一人十圓であるから一萬五千圓、合計三萬二千圓の收入を豫想したのであつた。

會費は以上のやうに外國参加者五弗國內参加者十圓と定められ豫算に豫計したのであるが、會費を決定する權限はどこにあるかと云ふ點を吟味してみると、事務局が勝手に決定した點について疑問を生じて來たのである。少くとも世界教育會議は世界聯合教育會の事業の一つであるから、先方が主催者である事については疑を容れないのである。然らばこれに對し帝國教育會の地位は如何であるかと云ふと、會議開催國に於ける世界聯合教育會の會員として、開催に關する一切の責任を負うてゐるのである。この責任は一九三五年八月十五日午前十時オックスフォードに於て開

かれた世界聯合教育會理事會の決議によつて明かである。参考のためそれを再録する。

決議事項

- (一) 世界聯合教育會の次回會議は一九三七年夏季、之を開催するものとす。但しその日取は後日決定すべし。
- (二) 次回會議は所要の經濟的保證を得ることに據り日本に於て開催するものとす。

帝國教育會は所要の經濟的保證をなす義務を負うてはるが、會議自體は世界聯合教育會の主權であるから、從つて會議參加の會費の決定權は世界聯合教育會に存するものと解するのが當然である。然らばその會費は世界聯合教育會の收入するところのものとなるであらうかと云ふ點に疑惑を生じて來たのである。その後會議の報告書を詳しく調査しようとしたが、會計に對する事項の報告は甚だ少く、事情を明瞭にする事が困難であつたが、一九三四年デューネープに於て開かれた、第四回世界教育會議に於ける會計報告は會議の會費を收入として、その收支計算を世界聯合教育會が行つてゐるのを發見したのである。よつて世界聯合教育會に對し會費の決定に付て昭和十一年十二月十五日當方の意向を明かにしその承認を求めし事にした。この際、世界聯合教育會は會費が甚だ高いと云ふ事を云つて來ただけで、開催國側の總括的責任を重んじて當方の決定通り承認を與へた。尤も、これ迄の會費は二弗程度のものであり、しかし收入役ヘーディ氏から會計掛を派遣しようかと云ふ事を附加してよこした。世界聯合教育會の會計掛によつて別途の會費整理を行はれる事は甚だ好ましくないので、それには及ばぬと答へて、會費の問題は本部の役員が來朝後に譲る事になつたのである。そしてモンロー會長來朝後の打合せによつて、總て本會に於て收入することが確定せられた。

然しながら世界聯合教育會は會費が少し高いから、世界聯合教育會の計劃する旅行團に加はるものは會費が二弗を負擔すると云ふ事に定めたので、本部計劃による旅行團に参加したものは事實上會費三弗に輕減せられた事になつたのである。以上のやうに世界聯合教育會の毎回の會費よりも高い會費ではあつたが、外國から遙々と八百六十九名の参加を見、而もその人々が日本に於ける萬般の斡旋に對し衷心から欣んで歸國し、會費の高いなどの一言の不平をも洩さなかつたのである。會費は高くとも参加者を満足させ得た事を幸とする。

外國側参加者の會費は前にも述べたように米貨五弗と云ふ事に定めてあつたが、参加國が四十ヶ國以上に及ぶ事になつてみると、米貨弗ではカナダ・メキシコ・上海等の弗、その他ポンド・フラン・ペソ等の外國貨幣によつて會費を納める場合、換價に却つて複雑を加へる事になるので、會費は邦貨十七圓と云ふ事に改むる事とした。

而して會費は豫算に於て三萬二千圓を豫計したのであつたが、實際の収入は二萬三千五百十圓二十錢であつて、八千四百八十九圓八十錢の減收である。その減少を生じた理由は、外國人の参加者中日本在住の者はこれを日本人と同様の會費を徴する事にしたため、外國人としての参加者数が豫定よりも減少したのと、日本人参加者中参加規程第一條第五號即ち「本會議ニ關係ノ各種委員云々」により各種委員の参加には参加會費を免除した爲とである。外國人の参加者中日本在住の者は、會議参加者の特典例へば日本全國の鐵道運賃五割引の如き利益を受けしめる事が出来なかつたので、日本人と同様に取扱ふ事にしたので、外國人参加者数を減じる事になつたのである。日本人参加者は合計二千四百九人の多數であつたが免除規定を適用せらるゝものがあつたので、會費を納めて参加したものは千八十五人に過ぎなかつた。會議が大規模のものであつた爲、各種の委員會が設けられ、その委員は總て無報酬で働かれたのであるから、参加會費の免除は當然と云ふべきであつて、會費收入の減少するに至つた事も又止むを得ぬ次第である。

第四章 會計

第一節 豫算及び決算

豫算 本會議の豫算は昭和十一年三月二十四日帝國教育會評議員會に提出して原案通り可決、確定したものであるが、これより先昭和十年十二月二日の理事會、同十六日の常任評議員會、翌十一年三月二十三日の理事會及び常任評議員會等に附議せられその承認を得たものであつた。

豫算は收入の部に於て會費、教育關係者酬金、政府補助金、寄附金、雜收入等の項を設け、支出の部に於て會議諸費、補助費、接待費、部會準備費、協贊會費、事務局費、講演會費、展覽會費、豫備費等の項を設け、總額五十二萬七百圓で、その内容は次の通りである。

第七回世界教育會議日本事務局收支豫算

科	款	項	目		豫算
			入	出	
第七回世界教育會議收入					五二〇、七〇〇圓

第四章會 計

一、會費	三二、〇〇〇
二、教育關係者贈金	八八、四〇〇
三、政府補助金	二〇〇、〇〇〇
四、寄附金	二〇〇、〇〇〇
五、雜收入	三〇〇
合計	三〇〇

第七回世界教育會議費

一、會議諸費	五二〇、七〇〇
二、部會委員費	五九、五三〇
三、通譯及速記料	七、〇八〇
四、映畫及寫真費	七、二〇〇
合計	一四、二〇〇
合計	三、五〇〇

支 出

第五編庶 務

一、會費	六、〇〇〇
二、補助費	一九、二五〇
三、接待費	二、〇〇〇
四、部會準備費	一〇二、五〇〇
合計	一〇二、五〇〇
一、聯合會役員旅費	八二、五〇〇
二、聯合本部事務助費	二〇、〇〇〇
三、見學旅費補助	一八七、五〇〇
四、紀念品費	二〇、〇〇〇
五、宿舍補助	一〇、〇〇〇
六、紀念品費	二八、〇〇〇
七、宴會費	五七、五〇〇
八、諸費	五二、五〇〇
合計	一九、五〇〇
一、委員會費	四八、二〇〇
二、調查費	一五、〇〇〇
合計	二四、六〇〇

- 一、會費三萬二千圓は、第七回世界教育會議參加者、外國人一人五弗（これは後に十七圓と改められた）日本人一人十圓の割合を以て豫計し
 - 二、教育關係者贈金八萬八千四百圓は、全國小學校・青年學校教職員及び幼稚園保母一人二十錢、其の他の學校職員一人三十錢の割合を以て贈金を受くることとし
 - 三、政府補助金二十萬圓は、文部省より會議開催に要する經費の補助としてこれを見込み
 - 四、寄附金二十萬圓は一般よりの寄附金収入を計上し
 - 五、雜收入三百圓は、利子收入其他を收入するものとし又科目存置の意味を有した。
- 支出の部
- 一、會議諸費五萬九千五百三十圓は内外人二千五百人によつて行はるる會議直接の經費を計上し
 - 二、補助費十萬二千五百圓は、世界聯合教育會の事務費補助及び第七回世界教育會議出席役員に支給する旅費を計上し
 - 三、接待費十八萬七千五百圓は、會議參加者の歡送迎費、日本文化の紹介に關する經費及び記念品費を豫計し
 - 四、部會準備費四萬八千二百圓は、部會に關する經費、主として日本側發表の調査研究の經費を
 - 五、協贊會費三萬七千七百五十圓は、宣傳・募金及び會議・接待等の準備の經費を見込み
 - 六、事務局費五萬四千四百六十一圓は、日本事務局職員の俸給・手當・筆墨・借館料其他の經費を計上し
 - 七、講演會費千圓は、世界教育會議出席の爲來朝の名士に講演を依頼し、講演會を催す經費
 - 八、展覽會費二萬圓は教育展覽會を開催する經費
 - 九、豫備費九千七百五十九圓は、豫備金として計上せられたものである。

右豫算の總額は日本事務局設置前、帝國教育會常務に於て研究調査の上豫計し、昭和十年十二月二日の理事會及び同十六日の常任評議員會に於て承認せられたものであるが、本會議の如きは我國未曾有の大會議であつて、前例となるやうなものがないため、確實な豫計をする事は甚だ困難で、その多くがつかみとも云ふべき豫算であつた事は否定

出來ないのである。豫算概算の引續を受けた事務局に於ても、勿論正確を期する事は困難であつたから、その計劃を踏襲して、款によつて作られてあつた會議諸費、補助費、其他を會長の流用權限範圍内の項に下げて、項間の流用に便ならしめ適宜の融通性を保たしめる事としたのであつた。

決算 豫算計上に當つて正確を期する事が困難な事情にあつたため、その實施に就ては、昭和九年十月開催の第十五回赤十字國際會議を最近の例として参考の第一とし、其他汎太平洋學術會議及び萬國工業會議の例を参考として充分注意を拂ふ事とした。決算に於ける實數は未だ殘務未了で確定數を掲げる事は出來ないが、收入に關しては第三章財務に於て既に述べるところがあつたやうに豫期以上の成績を納め、又支出に於ても豫定より四萬圓を減じ約四十八萬圓の決算となる見込となつてゐる。その内容は次の通りである。

第七回世界教育會議日本事務局收支決算（未了 昭和十三年十二月末現在）

科 目	項 目	收 入	
		收入 済 額	收入 見 込 額
第七回世界教育會議 收入	一、會 費	四七九、五〇〇圓	五〇〇圓
	二、教育關係者 贈金	二二、五一〇圓	
一、教育關係者 贈金	一、會 費	二二、五一〇圓	
	二、教育關係者 贈金	六五、九八〇圓	
		六五、九八〇圓	

第四章會 計

支		出	
三、政府補助金	一、政府補助金	一五〇、〇〇〇〇〇	
四、寄附金	一、寄附金	一五〇、〇〇〇〇〇	
		二二六、三五五七一	
五、雜收入	一、雜收入	二二六、三六六八三	
		三、六五三三三	
		三、六五三三三	五〇〇〇
			五〇〇〇

教育七回會議世界

款	項	目	支出濟額	支出見込額
一、會議諸費		一、會場費	四六二、〇三七一六	一七、五二〇〇〇
		二、部會委員費	八六、二二九七七	一七、四〇〇〇〇
		三、通譯及速記料	一四、一四三九六	
		四、映畫及寫真費	三、九三五〇一	
		五、徽章費	一六、六五三一〇	
		六、印刷費	六、一二三四七	
		七、交通費	三九、〇四〇八七	一四、六〇〇〇〇
		二、〇〇〇〇〇		

第五編庶務

二、補助費		八、雜費	五〇二四七	
		九、通信運搬費	三〇六六九	二、八〇〇〇〇
		一、聯合役員旅費	五五、八九〇八五	
		二、聯合本部事務補助費	三五、一六四四六	
		三、接待費	二〇、七二六三九	
		一、觀覽施設費	九六、三七六九二	
		二、見學旅費補助	八、九六八七二	
		三、宿舍補助	七、四四九九四	
		四、紀念品費	四、一五九一〇	
三、接 待 費		四、八、六七二九三		
		五、宴會費	九、一三五五九	
		六、諸費	一七、九九〇六四	
		一、委員會費	四四、五六一一二	
		二、調查費	七、〇八九五二	
		三、印刷費	二四、四一四九九	
四、部會準備費		四、手當	一、七五〇〇〇	
		三、印刷費	九、七〇六六一	

		五、協賛會費	五、通信運搬費	一、〇〇〇〇〇	
		六、交 通 費	六、交 通 費	五〇〇〇〇	
		七、雜 費	七、雜 費	一〇〇〇〇〇	
		一、會 合 費	一、會 合 費	五〇、二七四〇二	
		二、印 刷 費	二、印 刷 費	九、九六七五四	
		三、手 當	三、手 當	八、六八一八〇	
		四、通信運搬費	四、通信運搬費	一五、一九五六六	
		五、交 通 費	五、交 通 費	三、五〇〇〇〇	
		六、雜 費	六、雜 費	二、〇〇〇〇〇	
		七、部員講習費	七、部員講習費	四、七〇七五一	
	六、事務局費	一、俸 給	一、俸 給	六、二二一五一	一一〇〇〇
		二、手 當	二、手 當	七四、八七九三〇	
		三、雜 給	三、雜 給	二二、四六三八九	
		四、旅 費	四、旅 費	九、四九九六六	
		五、備 品 費	五、備 品 費	二、六八九六五	
				三、〇三四一七	
				三、五四五九五	

		六、消耗品費	六、消耗品費	四、二一四二一	
		七、印 刷 費	七、印 刷 費	一、〇九九〇四	
		八、通信運搬費	八、通信運搬費	五、八一三四五	
		九、交 通 費	九、交 通 費	五、五七〇七〇	二〇〇〇
		一〇、借 館 料	一〇、借 館 料	一一、八七八八五	
		一一、雜 費	一一、雜 費	二、七二二一〇	一〇〇〇〇
		一二、借入金利子	一二、借入金利子	二、三四七六三	
	七、講演會費	一、講演會費	一、講演會費		
		八、展 覽 會 費	八、展 覽 會 費	五三、八二五一八	
	九、豫 備 費	一、豫 備 費	一、豫 備 費		

第一項會議諸費に於て四萬五千圓餘の超過を生じたのは、主として第一目會場費及び第六目印刷費の増加によるものである。會場費は當初會場の借受料と少額の設備費を豫計したのであるが、會場費が帝國大學當局の好意によつて免除せられたにも拘はらず、設備費に於て豫定以上の支出額を要する事となつた。その重なるものは臨時電話加入料、扇風器の取付・屋外燈増設・立看板及びテント・大便器の備付・ソーシャルルームとして葎張の設備・氷柱等であつて、總會場及び部會場に使用した氷柱の数は六八〇本四千圓の支拂を要したのである。

印刷費は本部の希望と國內参加者の希望とを容れて報告書の冊数を増加する事となつた爲超過したのである。英文報告書五

册三千頁を三千組、同上英文報告書を和文に翻譯して和文報告書三册千九百頁を二千五百組、會議誌二册二千頁を二千組、冊數に換算して貳萬六千五百冊の大部の印刷となつた。この費用の中には英文和譯の校閲に關する經費も含まれてゐるが、編纂中時局のため洋紙の統制が行はれ紙價が著しく騰貴したことも、經費増加の一因をなしてゐる。其の他本項に於ては國外参加者に送付する報告書の送料が相當多額を要することになつたので、整理科目「通信運搬費」を設け處理する事とした。

第二項補助費は四萬六千圓を剩す事となつた。これは第一目聯合役員旅費補助に剩餘を生ずる事となつたためである。聯合教育役員旅費補助は當初十五人分の旅費（日本滞在費其他雜費を含む）を支給する豫定であつたが、本部と打合の結果、モンロー會長以外の者に對しては來朝旅費及び會期中の滞在費以外は支給しない事とし、尙船は日本の汽船會社利用を原則として、その旅費の計算も日本汽船會社の割引運賃による事としたため、右の如き剩餘を生ずる事となつたのである。そして右の剩餘額はこれを會議諸費に於ける報告書作製の經費に流用しその不足を補ふ事とした。

第三項接待費は約九萬圓の剩餘を生ずるに至つた。これは第一目觀覽施設費・第三目宿舍補助・第四目記念品費・第五目宴會費等の剩餘によるものである。

觀覽施設費は演劇・能樂・音樂・美術品陳列等日本文化の紹介に關する經費を豫計したのであるが、他の團體の後援即ち國際文化振興會主催の能樂、東京日日新聞社主催の觀劇會、愛國婦人會主催の招待會、海外婦人協會主催の招待會等開催され、この方面の經費の支出を見ないで済んだものがあつたためである。

宿舍補助は帝國教育會一ツ橋寮の他特に宿舍を改造して参加外國人の宿舍に當てる必要を生じなかつた結果剩餘を生じた。記念品及び宴會費は、特に宴會費の如きは日支事變の前途を憂慮されてゐた時期であつたから、勉めて質素を重んじた爲と、外務大臣主催招待會が經費を負擔せずして済んだ爲、剩餘を生ずるに至つたのである。

しかして右剩餘金額は教育展覽會、古美術展覽會、現代日本畫展覽會其他の不足を補ふ事とした。第四項部會準備費は、豫算と畧同一であるが第三目印刷費に於て不足を生じ、同項内に於て流用を行ふ事となつた。

印刷費は議會委員の調査による論文の印刷費を豫計したものであつたが、日本の教育に關する概要を参加外國人に贈與することが必要であるとせられ、文部省に於て編纂せられる事となつたので、その印刷費を増加計上したため不足を生ずるに至つたものである。

第五項協贊會費は、協贊會により寄附金の募集宣傳及び接待の準備等の經費を豫計したのであるが、第一編に於て述べたやうに協贊會は設立されなかつたが、財務委員會、總務委員會、接待實行委員會、ホテル交通委員會、文化施設部委員會、宣傳委員會其他が設けられその準備に當つたのである。豫算に不足を生じたのは、國外参加者勸誘に相當の努力を要し第一目手當（人件費）、及び接待部員の養成の計畫が新に實施せられる事となつたため第七目部員養成費（整理科目）等に於て必要な支出を行はねばならなかつた結果である。

第六項事務局費は、日本事務局の事務費であるが、當初の豫算の見積が過少であつた結果、各目に於いて不足を生ずるに至つたものであつて、中にも借館料に於て約一萬圓を超過するに至つたのは、事業が膨大であり豫定以上の室數を使用したのと、殘務整理期間が相當長期に涉つたので室の借受期間が延長されたためである。尙、借入金利子は、整理科目であつて、事務局が會議の準備を行ふに當つて、その當初資金がなかつたので、帝國教育會保管金中から九萬圓を借入れる事としたもの、利子支拂である。

第七項講演會費は、日本放送局によつて實行せられた著名参加外國人の放送があつた、め開催を見合す事となつたので豫算の實施がなかつたのである。

第八項展覽會費は、當初教育展覽會のみの經費を豫算したのであるが、第三項接待費第一目觀覽施設費中に計畫された日本美術、生花及び其他紹介の一部を展覽會を開催して行ふ事になつたので、展覽會に於て經理する事となつた。よつて展覽會は教育展覽會の他に古美術展覽會、現代日本畫展覽會、文化展覽會及び生花展覽會等が開催される事となつた。従つて豫算に不足を生ずる事となつたもので、その不足額を第三項接待費から補ふこととしたものである。

以上の如く決算が豫算に對し相當の隔りを示してゐる事は、豫算編成上賞讃せらるべきことではないが、前述した

通りの事情で止むを得ぬ結果であつたのである。
次に決算によつて経費の百分比を求めてみる事とした。この比は將來國際會議の開催計畫を樹てる上に多少の参考となるものと思料する。

支出経費百分比表

種別	金額	百分比
一、會議關係費	一四八、一九一	三一%
內 譯 會 議 諸 費	一〇三、六三〇	二二%
內 譯 部 會 議 準 備 費	四四、五六一	九%
二、接待關係費	二〇〇、四七六	四一%
接 待 費	九六、三七七	二〇%
內 譯 展 覽 會 費	五三、八二五	一一%
協 贊 會 費	五〇、二七四	一〇%
(宣傳接待準備費)		
三、事務局費	七五、〇〇〇	一六%
四、補助費(本部役員旅費及事務費補助)	五五、八九一	一二%
計	四七九、五五八	一〇〇%

第二節 經 理

昭和十一年一月二十七日に定められた文書會計事務内規第三條は、

事務局ニ於テ必要トスル經費ニ不足ヲ生ズル場合ハ帝國教育會會計ヨリ借入ル、コトヲ得

前項ノ借入金ニ對シテハ帝國教育會ノ定ムル利子ヲ支拂フモノトス

と規定してゐる。事務局が同年一月設置された際には基金もなければ實収入もなかつたので、不足を生ずる迄もなく借入金の方法を講じなければ、活動の資源となる準備費を支出する事が出来なかつたのである。よつて事務局は實収入が得られるに至る迄の間帝國教育會會計から資金を借入れる事とした。

右資金の借入は昭和十一年一月二十四日から、十二年三月二十日迄の間に八萬圓であつたが、十二年六月十七日借入金の全額の返還及び利子の支拂を行った。その借入の状況は次の通りである。

事務局資金借入状況

借入年月日	借入金	同上利子	適 要
昭和一一、一、二四	一〇、〇〇〇、〇〇〇	八一〇、三九三	年利六分
一一、八、一	一〇、〇〇〇、〇〇〇	四九九、七一五	〃
一一、八、一七	五、〇〇〇、〇〇〇	二三五、八八五	〃
一一、九、一〇	五、〇八四、七五〇	一五二、一二〇	年利四分

昭和一一、一〇、二二		一、一一七、九九〇	三七、一九五	年利四分
一一、一〇、二八	一、〇六八、六七〇	二五、二九四	〃	
一一、一一、二一	一、五四四、八二〇	三二、五〇五	〃	
一一、一一、二七	四五二、八九〇	九、二八一	〃	
一一、一二、二	一、五七四、六五〇	三一、二三三	〃	
一一、一二、四	三、三六三、〇〇〇	六五、六〇二	〃	
一一、一二、七	五八七、九〇〇	一一、二七三	〃	
一一、一二、一六	四九七、八八〇	九、〇五六	〃	
一一、一二、二三	一、七九六、四三〇	三一、三〇二	〃	
一一、一二、二八	二、二二九、三〇〇	三七、六二二	〃	
一一、一、一一	四八七、〇二〇	七、五二五	〃	
一一、一、二三	一、八四一、六九〇	二六、〇三二	〃	
一一、二、一	一三、三五三、〇一〇	一七五、六〇二	〃	
一一、三、二〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	〃	
計	八〇、〇〇〇、〇〇〇	二、三四七、六三六		

事務局の経済は以上の借入金によつて先づ支辨したのであるが、實收入あるに及んで自給自足の経済を行ふ事となつた。自給自足と云つても収入は決裁によつて一定の金庫即ち銀行に預金し、支出は決裁によつて金庫から支拂ふ事

としたのであつた。その經理の方法は別に規定を設けなかつたが一般官署の會計にならつて、幾分複雑ではあつたが過誤なきを期した。

物品會計 物品の請求は第二章第二節に記述したやうに、主務者から請求書を提出せしめ、會計係に於てその必要に應じ「物品購買請求書」を起案し、決裁を経た後購買し、請求者に交付する事とした。尤も豫め需要を認め得るもの、例へば郵便切手・電車及び自動車乗車券・消耗品等は請求を待つことなく購買し置き、請求ある場合直ちに交付する事とした。

物品購買請求書収入支出命令書
世教物第 號
幹 事 主 事
左記購入相成可然哉
記

品 名	数 量	價 格			摘 要	月 日 印	検 収
		單 價	價 金	額			

而して會計係は、切手類に對しては「郵便切手受拂簿」、電車・自動車乗車券に對しては「電車自動車乗車券受拂簿」、消耗品に對しては「消耗品受拂簿」、備品に對しては「備品臺帳」を備へつけ、備品には番號を附けて整理し、その受拂の状況を記載する事とした。その用式は受・拂・残及び摘要を設けた單純な受拂簿である。

金銭會計 収入は會費の納入、教育關係者贈金の送付、政府補助金の交付、寄附金の拂込及び預金利子、不用品賣却其の他によつて行はれたが、収入の必要が起つた場合、會計係は別に掲げる様な収入決裁書を起案して、上司の決裁を経て金庫即ち銀行に預入るのであつた。銀行は住友銀行神田支店に當座を設けたる外、寄附金拂込の便宜上、第一・三菱・三井・安田・住友銀行等に特別當座を設けたが、收支の一覽に便ならしめるため、事務局に於て支拂ふ金額は總て住友銀行神田支店の當座によるものとしたから、他の銀行に一度預金したものも必要に応じて住友銀行神田支店當座に預け替へることにした。よつて事務局に於ける一切の收支は住友銀行神田支店當座の收支を検査する事によつて明瞭である。以上の如く収入は銀行に保管せられたが、事務局に於ける帳簿は収入豫算簿と日記帳式の金銭出納簿である。豫算簿は年月日・書類番號・豫算額・収入額・摘要等を設けた形式を執り、出納簿は年月日・書類番號・收支の事由・収入額・支出額・摘要等を設けた形式によつたものである。豫算簿は豫算の目によつて口座を分類し、出納簿は銀行別によつて出納の整理が行はれた。

収入 決裁書
支出

専務理事	幹事	主事	記帳済
収入 支出 票			

一金

内 護

科目	證憑番號	金額	氏名	摘要

昭和十三年 月 日

支出は支出の必要が起つた場合、支出決裁書を起案し上司の決裁を経て、その都度支拂をなしたのであるが、文書會計事務内規第四條の規定によつて「事務局幹事ハ五百圓ヲ限り前渡金ヲ受ケ必要ナル支拂ヲナスコトヲ得」たので、前渡金によつて支拂をなすものもあつたのである。支出は支出豫算簿の外収入の際述べたる日記帳式の金銭出納簿に逐次記入し、又前渡金は前渡金受拂簿を設けその收支を記帳し、隨時收支計算書を作成して、前渡金の精算を行ったのである。

尙物品の購買はなるべく二人以上の者から見積書を提出せしめ、その低廉なるものを購入し、又事務用品購入は特に必要なものに止め、消耗品中謄寫印刷用紙は藥紙を使用する等物品の市價騰貴の折であつたから極力節約につと

めたのであつた。

以上の如く事務局會計の事務は事務局の定めによつて取扱つたのであるが、事務局開設の當初はその機構が定まらなかつたため、金銭支拂の事務を帝國教育會常務に依頼して行ふ事とした。しかしこの期間は約一年で、昭和十二年一月から總て事務局に於て施行する事に改められたのである。従つて收支關係の事務がその取扱ひを二つにしてゐるが、準備當初であつて出納も烈しくなつた際であるから、證憑其の他の整理には殆んど差支へなかつたのである。

會計に關する證憑書類は會議準備期間及び殘務整理期間を合せて約三ヶ年間金額四十七萬圓の收支であるから、丈にも余る程の老大さである。證憑書は特別なものを除いて月日順に整理保管する事とした。

會計監査 殘務が略終了したので、帝國教育會監事の監査を受ける事とした。監事は矢野恒太及び望月軍四郎兩氏であるが、望月監事は矢野監事と協議の上、第一生命保險會會計課長赤井琢市氏に書類の下見を依頼され、昭和十三年十一月十五日赤井氏同伴來局され監査を開始された。十一月中收入關係を終り目下支出の監査中である。

第五章 記録 編纂

第一節 總 說

第七回世界教育會議は、ひとり來朝外人の數が一千名に近き程の多數であつたといふばかりでなく、その準備事務に於ても各種委員數一千二百名に上り、主なる支援團體の數約一千を數へ、醜金應募者約二十五萬人、六大都市及び奈良、長崎、下關各市に加ふるに靜岡、三重、山梨、栃木、宮城等の各縣が積極的に歡迎陣を敷いたのであつて、名實共に我國未曾有の大規模なる國際會議であつたといへる。

さればこの會議の正確なる記述、詳細なる記録を編纂することは、事業の記念に備へるといふ形式的の目的よりも尙多くの意義効果を見出すのである。

一、會議に於て發表されたる外國人の論文を印刷することにより、我國教育界へ教育上の好參考資料を供し得ること。

二、會議に於て發表されたる日本側の論文を印刷して、國外参加者はじめ外國圖書館等に寄贈することにより、我國の教育事情を闡明し、延いては我が文化の真相を把握せしめ得ること。

三、會議準備事務その他の詳細なる記録を編纂することにより、今後開催さるべき國際會議の準備に當る場合の參考資料となること。

四、來朝外人の我國に對する印象批評等を蒐集することによつて、外國人の眼に映する我國を我々が再検討し得ること。

大體以上の如きものである。従つて事務局は開設當初より記録編纂を不可欠の事務の一として、これが資料の散逸せざること留意すると共に、その資料の蒐集を怠らなかつたのである。即ち會議開始前より寫眞映畫班を組織して、寫眞又は映畫による記録を蒐集し、會議開始せらるゝや錄音班を活動せしめて、錄音機により總會・部會その他に於て發表せられたる論文學說を記録し、會議終了後我國並びに外國の新聞雜誌を涉獵して會議に關する批判乃至は我國に對する印象記等を蒐集した。

かくて事務局は會議終了後直ちに記録編纂事務を開始したが、作成すべき記録を左の如きものと定めた。

- 一、論文集（英文邦文兩様）
- 二、會議誌
- 三、記録寫眞帖
- 四、記録映畫
- 五、外國諸雜誌又は新聞等に發表せられたる會議隨想錄集
- 六、我國雜誌又は新聞等に發表せられたる會議批判集
- 七、接待部員の接待中の見聞その他の感想集

而して第一の論文集は、専門上の意見に涉るものであり、少くも日本側發表は、各部會準備委員會の審議決定を俟つて行はれたものであるから、この委員會をそのまゝ、記録委員會とし、論文集編纂に於てそれ／＼主任を定めて、編輯編纂したのである。左に各につき作成經過を記録することとする。

第二節 論文集

論文集編纂の基礎としたのは、第一に錄音板であり、第二に發表者原稿、第三に各部會書記長の摘記せる要旨であつた。

錄音板 事務局が國際錄音機製作所より受取つた錄音ディスクは一千二百二十六枚であつたことは、第三編第二章第二節第二項記述の如くである。これを事務局員田中米子、城戸松子の二名をして、蓄音機を使用して聴取しつゝ、速記せしめた。然るに錄音技術の拙劣の爲め完全に聴取し得ざるものに商業教育部の第二日分全部があり、他に一二枚不完全のものがあつた。速記者たる二名の局員は何れも米國生れにして彼の地の學校卒業生なるも、インド人、アイランド人等の英語に聴取し難きものあり、又は完全には聴取すること困難なるものがあつたので、これらに對しては論文發表者に請うて講演原稿の送附を依頼した。完全に錄音せられたるものも音聲の歪みの爲一回の聴取にては速記困難にして、少くとも十回多きは三十回以上も聴取を繰返し、尙不明の字句は脱字として専門家に依頼して意味並びに文章の上より脱字を補ふこととした。一千二百二十六枚の錄音板中半數は日本側發表者分として聴取不要のものとし、結局六百十三枚の片面三分間を要するものとせば一回の全聴取には約六十三時間を要し、繰返し聴取平均一枚

につき十回とすれば聴取全所要時間六百三十時間となる。一日の勤務時間午前九時より午後五時までとし休憩一時間とせば七時間であるから、これを以て前の六百三十時間を割れば、約九十日間を要することを知る。前記二名の速記者中一名の婦人は熟達せるも、他は熟達の域に至らず、而もこの兩名とも他の残務整理事務を擔當するものありし爲、全勤務時間を録音速記に使用し得ず、九月より開始して一應の速記完了したるは十二月の終であつた。後にこれを第一次原稿として、誤謬訂正脱字補充等に努め、全く録音板より離れ得たのは、昭和十二年六月に及んだ。

この間前記の如く書面を以て問合せを行つたものは、全部で十三名に及ぶ。即ちイタリー二、フィリッピン三、インド一、イギリス二、アメリカ三、ドイツ一、ノールウェー一である。然しながらこれが回答も意の如く入手出来ず數度の督促を行ひ、最後に電報を以て督促したるもの數名に上るのであつて、全部の回答が揃つたのが昭和十二年四月の交であつた。

記録委員會 録音による第一次原稿成るに従ひ、前節に一言したる如き記録委員會を開催して、共通協議事項として左の諸項に關する意見を徴することとした。

一、委員會名變更ノ件。

(從來の各部會準備委員會を當該記録委員會と變更し準備委員をその儘記録委員として委員會を構成存続するの件である。)

二、論文作成ニ關スル件。

1. 第七回世界教育會議ノ各部會ニ於テ發表セラレタル論文ヲ集録ノ上、英語版、日本語版ノ二種ノ論文集ヲ作成スルコト
2. 英語版論文集ノ論文配列ノ方法ハ各部會毎ニ分類ノ上、發表順ニ從ヒ集録スルモ、日本側發表論文ノミハ一括シテ別卷ニ收録スルコト
3. 日本語版論文集ハ一切ヲ發表順ニ集録スルモ、日本側發表論文ハソノ要旨ノミヲ印刷スルコト

又記録編纂上當該部のみ特別なる協議事項は、右共通協議事項の後に提案した。かくて左の如き日時に於て各記録委員會が開催されたのである。

一、教員養成部記録委員會(昭和十二年十一月一日 午後五時半)

出席者 長谷川乙彦、有元久五郎、木村ふみ、櫻井役、佐藤禮云、下村壽一、龍山義亮、田中一元、辻助次郎、日田權一、牧一、馬上孝太郎各委員

二、工藝教育部記録委員會(十一月四日 午前五時半)

出席者 鎌田彌壽治、大妻コタカ、岡登貞治、河野富子、清水福市、津田信良各委員

三、教員會部記録委員會(十一月十一日 午後五時半)

出席者 長谷川乙彦、荒井五郎、市川源三、片山昇、金子政次郎、川邊喜三郎、菅野健、竹田菊、津田信雄、高城研各委員

四、大學及專門學校部記録委員會(十一月十二日 午後五時半)

出席者 阿部重孝、田尻常雄、大橋廣、小澤恒一、片山寛、上代たの、武部欽一、千葉勉、井上思外雄、大島正徳各委員

五、初等教育部記録委員會(十一月十五日 午後五時半)

出席者 小林澄兄、赤井米吉、磯部眞澄、小川英男、上沼久之丞、兒玉省、佐々木秀一、下川兵次郎、田島普次郎、野口彰、堀七藏、宮内與三郎、吉野作藏、龍山義亮各委員

六、商業教育部記錄委員會（十一月十九日 午後五時半）

出席者 上田貞次郎、嘉悦孝子、梶原壽一、金井清、川邊美智子、小林愛雄、吉澤徹、市毛造、稻垣儀一、甲斐兼藏、小曾根淳、山崎與右衛門各委員

七、教育法規部記錄委員會（十一月二十五日 午後五時半）

出席者 朝比奈策太郎、今宿次郎、内片孫一、合田龜太郎、鈴木孝雄、鈴木賀一郎、龍野定一、船越源一各委員

八、ハーマン・ジオルゲン委員會記錄委員會（十一月二十九日 午後五時半）

出席者 青木節一、相澤潔、今岡信一良、片山昇(代)、河井道子、久布白落實、爲藤五郎、永井松三、皆川治廣、村尾昇一各委員。

九、放送教育部記錄委員會（十二月六日 午後五時半）

出席者 岡正雄、尾山知安、小尾範治、片岡直道、清水順治、西本三十二、野口彰、藤野惠各委員

一〇、中等教育部記錄委員會（十二月九日 午後五時半）

出席者 市川源三、西村房太郎、秋山卯廣、白石正邦、瀧田爲壽、土屋潤身、都留仙次、中島嘉之吉、濱幸次郎、廣瀬雄、時田榮一、三谷民子各委員

一一、地理教育部記錄委員會（十二月十日 午後五時半）

出席者 加藤武夫、多田文男、石田龍次郎、内田寛一、小田内通敏、清水卯、富士德次郎、渡邊光各委員

一二、映畫教育部記錄委員會（十二月十五日 午後五時半）

出席者 水野常吉、稻田達雄、井上春雄、岡庄五(代)、堂東傳、中田俊造、西脇乃夫彦各委員

一三、成人教育部記錄委員會（十二月十四日 午後五時半）

出席者 水野常吉、池田安(代)、大江スミ、高良富子、佐々井信太郎、高島平三郎、生江孝之、松本喜一、松信節子、三崎文四郎、矢吹慶輝各委員

一四、農業教育部記錄委員會（十二月十五日 午後五時半）

出席者 佐藤寛次、内村兵藏、杉浦保吉、松井謙吉各委員

一五、就學前及幼稚園部、家庭及學校部合同記錄委員會（十二月十七日 午後五時半）

出席者 倉橋惣三、石原キク、岩村安子、丸山千代、和田實、石渡篤子、小澤徳一、川西田鏡子、曾根松太郎、館いと子各委員

一六、學校衛生部記錄委員會（十二月二十日 午後五時半）

出席者 井上圓治、今井忠宗、大西永次郎、奥村鶴吉(代)、喜多浦哲宗、田中照子、龍山義亮、松下實各委員

一七、理科教育部記錄委員會（十二月二十一日 午後五時半）

出席者 柴田桂太、福井玉夫、有坂勝久、安東壽郎、太田順治、大村益荒、岡村周諦、金田義種、倉林源四郎、栗山重、桑木來吉、日野清次郎、廣瀬政次、藤本源吾、藤澤六馬、村野彌太郎、森金次郎、安河内次雄、吉田弘、和田精一、渡邊年各委員

以上の各記録委員会に於て、事務局は録音記録中不明の箇所並びに録音板によつて録取し得た以外の講場に於ける諸問題、及び口頭発表以外に提出された論文並びに、論文集に收容すべき論文等につき、各委員の記憶を討ね意見を徴して、完全なる記録を得ることに努めた。

原稿の整理 かくて第一次原稿を基礎としてこれが整理に着手した。即ち日本側提出論文は一二を除く外は悉く原稿が提出されて居り、而も第一章に記した如く、會議開催前これを印刷に付して、會議場に於ける発表の際出席者に交付したのであるから、單に組み替へを行ふを以て足るが如くであり、残務整理部に於ても當初その豫定であつた。然るに日本側提出英文論文中には誤植も絶無ではなかつたし、原稿そのものにつき外國人の理解し得ざるが如き記述も少くないことが發見されたので、昭和十二年一月十八日東京商科大学の牧一教授を囑託して、日本側論文の再検討とその整理とに従事せんことを依頼した。同教授は劇職の傍この難事業の引受を承諾され、外國人を顧問として校訂に従はれた。即ち一月二十八日成人教育部の原稿整理成りしを最初として、二月十七日までに日本側論文を終へられた。

次いで事務局は、外國人發表論文の校訂をも牧教授に依頼したので、二月十五日より開始され四月十一日に終了した。

英文原稿の翻譯 日本語版の論文集を作成する爲外國人の發表論文を翻譯しなければならぬ。(日本側發表論文は要旨のみを採録することに、記録委員会に於て決定されたが、この要旨は既に會議開始前各論文起草者に請うて記述してもらつたのがあり、「第七回世界教育會議」日本側發表論文要旨)として印刷されてゐた(第一章参照)から、これに洩れたる二、三を追加するを以て足りた)。依つて録音速記一部の完了を俟ち、昭和十二年十一月これが翻譯を開始し

た。翻譯従事者は經費の關係上若き英語堪能者に依頼した。翻譯者は全部で十八名であるが、地理教育部を多田文男委員に、農業教育部を佐藤寛次委員に、學校衛生部を大西永次郎委員に依頼してその翻譯作成を請うた外は、津田英學塾卒業生、帝大學生等に依頼した。而してその譯の適否を調査する爲、更に學部連絡委員と圖り、同委員その他に校閱を請うこととした。右校閱責任者は、田尻常雄、鎌田彌壽治、加藤武夫、多田文男、倉橋惣三、佐藤寛次、福井玉夫、水野常吉、大西永次郎、西本三十二、赤井米吉の諸氏である。校閱者は非常なる熱心を以て當られたが、常務多忙の爲残務整理部が希望した七月十五日の期日より遅れられたものが多く、八月に至り漸く全部が纏つたのである。

英語版論文集の印刷 英語版論文集は、競争入札の結果により東京印刷株式會社に下命することとしたが、日本側發表論文より着手し、一月十八日成人教育部の初校が回送されたのを最初とし三月二十九日に一應初校全部が出揃つた。而して何れも七校まで校正したるも、中には九校に及んだのもあつて、七月六日に校了した。外國側論文は五月九日成人教育部の初校成り、これも七、八校をとつたが、進捗状況豫定よりも遅々たるものあるを以て、八月九日より印刷所へ出張して校正をなすこととし、暑休を廢止し毎日午後八時まで従事し、十月五日に至つて全部を完了した。校正に従つたものは左の如し。

牧一囑託、黒田幸弘、田中米子、城戸松子、名尾環、小西弘、山内道子、大多和幸代

かくて製本装幀の成つたのは、十一月二十六日であつた。全五巻各巻頁數左の如し。印刷部數三千。

第一卷 三五五頁

第二卷 七一〇頁

第三卷 六二九頁

第四卷 五五二頁

日本語版論文集の印刷 日本語版論文集の印刷は、競争入札の結果凸版印刷株式会社に下命した。八月二十九日最初の初校が出、五校をとつて十月二十九日に全部終了した。この論文集も校了の一日も速かに終る爲、十月九日より左記校正者を印刷所に出張せしめた。

黒田幸弘 菅野三郎 加藤武雄 池田日出郎 山内道子 中川妙子 大多和幸代

本論文集は全三巻である。印刷部数二千五百。

第一巻 六二八頁 第二巻 五七六頁 第三巻 六六二頁 計 一八六六頁

日本側發表英文論文集 前記英語版論文集の第四巻及び第五巻は日本側發表論文のみを収録したものであるが、世界聯合教育會本部の希望もあつたので、特にこの二巻を、"Education in Japan" なる名稱の下に別製本することとした。印刷部数三百。かくてこれらを聯合教育會本部を通じアメリカ合衆國の有名圖書館その他の備付用として寄贈することとした。

論文集の發送配布 英和兩様の論文集、英語版は國外参加者、日本語版は國內参加者（國內参加者中の在留外人には英語版を）へ無償配布をなすこととしたが、本稿起草中には發送手續完了しないのでこれが記録は省略する。唯外國参加者に發送するには、郵送料一部五圓を要するので、莫大な負擔となるから、これが發送費節減の爲あるゆゑ方法を研究中であることを附記しておく。

録音板の複製 發表論文の速記資料とした録音板は發表者の希望申出が多かつたので、理研光學工業株式會社に下

命してこれが複製をなし、發表者に希望の有無を問合せ、希望者に對し實費（一枚に付二圓）を以て頒布した。

第三節 會議誌

世界教育會議一切の準備事務を中心とする會議誌の編纂は、事務局開設當初より計畫され、従つて資料の散逸を防ぐことに努むる一方、資料の蒐集、文書の整備にも常時注意し來つた。かくて會議終了後直ちに左記の如き會議誌編纂要目を作成した。

第七回 世界教育會議誌

總 說

- 第一 會議の由來
- 第二 會 期
- 第三 日本事務局の設置
- 第四 準備會の開催
- 第五 委員會の構成
- 第六 招 待 状
- 第七 参加者の特典
- 第八 参加者の狀況

第一章 會議の準備經過

- 第一 部會準備委員會
- 第二 總會準備委員會
- 第二章 會議の實施狀況
- 第一 明治神宮參拜
- 第二 總 會
- 第三 部 會
- 第三章 世界聯合教育會の會議
- 第一 代表者會議
- 第二 理事 會

第一章 會場の選定

第二章 會場部委員會

第三章 會場施設計劃

第一總會場

第二部會場

第三食堂

第四事務局出張所

第五社交室

第六醫務室

第七臨時郵便局

第八インフォメーション・ビューロー

第九賣店

第十電話

第十一冷房

第十二便所

第十三其他

接遇

第一章 概説

第一 語問機關の設置

其一 顧問

其二 中央委員

其三 總務委員

第二 實行機關の設置

其一 接待部實行委員會

其二 ホテル交通部委員會

其三 文化施設部委員會

其四 地方接待委員會

第二章 宣傳關係

第一 國外宣傳

其一 印刷物の刊行

其二 招待會開催

其三 外國教育大會に於ける宣傳

其四 外遊者に對する宣傳依頼

其五 ラヂオ放送

其六 其他

第二 國內宣傳

其一 國內宣傳委員會

其二 印刷物の刊行

其三 ラヂオ放送

第三章 接遇に關する朝野の協力

第一 概説

其一 官公署

其二 公私團體

第二 警察

其一 衛生

其二 消防

其三 外事

其四 交通

其五 刑事

其六 水上

其七 其他

第三 通信

第四 通關

第五 宿泊

第六 報章

第四章 接待委員並びに接待部員の活動

第一 接待委員の部署並びに活動情況

第二 接待部員の部署並びに活動情況

第五章 ホテルと交通

第一 ホテルの幹線準備

第二 旅行日程及び輸送情況

其一 會議前後の旅行日程

其二 配車輸送情況

第六章 接待

第一 晩餐會・園遊會其他招待

其一 代表者歡迎晩餐會

其二 帝國教育會長、東京帝國大學總長共同主催園遊會

其三 東京府知事、東京市長共同主催園遊會

其四 外務大臣主催園遊會

其五 海外婦人協會主催招待會

其六 米國大使主催招待會

其七 カナダ公使主催招待會

其八 印度學生協會主催招待會

其九 母の代表主催茶會

第二 能樂、歌舞伎劇其他の紹介

其一 東京音樂學校長主催和洋音樂會

其二 文部大臣主催歌舞伎觀劇會

其三 國際文化振興會主催能樂鑑賞會

其四 愛國婦人會主催日本の結婚式實演會

第五章 記録編纂

其五 日本舞踊賞演會

其六 東京日日新聞社主催觀劇會

第三章 展覽會

其一 教育展覽會

其二 現代日本畫名作展覽會

其三 古美術展覽會

其四 生花展覽會

其五 時代風俗展覽會

其六 印刷と出版文化展覽會

其七 小原光雲氏主催招待會

第四章 武道の紹介

第五 其の他

其一 國際佛教協會主催先亡世界教育功勞者追悼會

其二 中央蠶絲會主催米國國旗授與式

第七章 教育施設其他の視察

第一 東京市内

其一 東京市内觀光並びに教育施設の觀察

其二 東京帝國大學内視察

其三 早稻田大學演劇博物館視察

第二 東京郊外

其一 大宮地方視察

第八章 日本文化講座

第九章 地方接待

第一 地方接待委員會の設立

其一 東京市教育局内準備委員會の組成

其二 地方接待委員會設置の依頼

其三 地方接待委員會の協力と相互連絡

第二 地方接待實施情況

其一 横濱

其二 名古屋

其三 京都

其四 奈良

其五 大阪

其六 神戸

其七 長崎

其八 下關

第十章 印刷物其他の寄附

第十一章 参加名士のラヂオ放送

庶務 篇

第一章 第七回世界教育會議日本事務局の構成

第二章 庶務

第一 官公署並びに諸團體との連絡

第二 對外通信

第三 餘録

第三章 財務

第一 國庫補助申請と補助金下附

第二 寄附募集計劃と其の情況

其一 財界との連絡

其二 文部省の協力

其三 教育團體との連絡

其四 一般寄附金並びに教育者陳金

第四章 會計

第一 第七回世界教育會議決算

第二 本會議費の經理一般

第五章 殘務整理

第一 記録編纂

其一 文書整理

其二 報告書作成

其三 會議誌作成

其四 映畫作成

其五 寫眞帖作成

第二 録音整理

第三 人事處理

第四 餘録

第六章 結章

この内容豫定に従ひ、各係主任その他を編纂分擔者に命じてその受持記事の記録執筆に當らしめた。

總説——書記 杉内一喜

會議篇——書記 黒田幸弘 書記 宮内重次郎

會場篇——囑託 岩田耕作

接遇篇 第一章——書記 杉内一喜

同 第二章——書記 杉内一喜 書記 丸山眞壽夫
書記 免取慶一郎

第五編 庶務

接遇篇	第三章	書記	杉内一喜	
同	第四章	囑託	岩田耕作	
同	第五章	書記	加藤千里	
同	第六章	囑託	岩田耕作	書記 重見辰馬
同	第七章	囑託	岩田耕作	書記 加藤千里
同	第八章	書記	杉内一喜	囑託 村岡 敏
同	第九章	書記	杉内一喜	
同	第十章	書記	杉内一喜	
同	第十一章	書記	杉内一喜	
庶務篇	第一章	書記	杉内一喜	
同	第二章	書記	杉内一喜	
同	第三章	囑託	木村由之助	書記 松岡要次郎
同	第四章	書記	松岡要次郎	
同	第五章	書記	杉内一喜	

以上の編集分擔者よりは十月末日までに第一次原稿を提出せしめたが、この時期までに完了したものの約七割であつた。こゝに於て新に杉内一喜を編集主任として、分擔者より提出の原稿を検討しつゝ、足らざるを補ひ、體裁、文章の統一をなさしめた。かくて杉内書記より第二次原稿の提出あつたのは四月末日であつた。

然るにこの第二次原稿を見るに左の如き缺點が指摘された。

- 一、分擔執筆者は會議事務の開始當初より局員たりしもの一人もなく、多くは會議前一ヶ年頃に採用されたものであつたので、擔當事務の草創時代・準備時代の記述を全然缺くか、又は簡略に過ぐるものあること。
- 二、異なる數人のものの原稿は、如何に統一に努力しても結局體裁文章等が前後不揃ひとなること。
- 三、執筆者の考へ方同一ならざる爲、記事に精練あり、同一事項の重複等あるを免れざるること。

以上の缺陷を是正する爲、五月より松井幹事が第二次原稿に手を入れた結果、既成原稿を訂正する方法は、極めて勞多くして工程はかどらざることを發見したので、新たに原稿を執筆することに變更した。

この新原稿起草の決定をなさしめたのには、尙更に一つの理由がある。それは、外務省及び文部省並びに萬國博覽會事務局、オリンピック組織委員會等より、世界教育會議の準備事務の内容方法を知らりたいから、出來得る限り詳細に記述されたいとの要望があつたことこれである。殊に外務省は世界教育會議の事務は、甚だ整備されて行はれた如くであるから、此後の國際會議開催者の參考資料として、最も好適と認めらるるを以てその成功の原因のみならず、失敗の跡をも隠さず記したる記録を作られたいとの希望を述べられた。よつて、殘務整理部には、これらの要望に副ふべく從來菊版八百頁を目標として編纂の豫定であつたのを、約五割増の千二百頁に増大したものを作成することに變更したのである。即ちこの目的からも新稿を起す必要が生じたのである。結局出來上りを見れば、本書によつて知らるる如く、實に二千頁の尨大なる記録となつたのであるが、これを六月一日より起稿し十二月八日に脱稿するまで實に百七十日を費したのである。然し本稿は「第四編第八章教育展覽會」を除く外は悉く新たに起草したものであり、その大部分は松井幹事擔當し、吉野主事、黒田書記がその一部を擔當した。従つて一ヶ月約三百頁(九ポイント・八ポイント兩種組)を書き上げたこととなり、相當の難事業であつたことが解かる。

會議誌の印刷は、競争入札の結果、凸版印刷株式會社に下命し、原稿の成るに従ひ印刷に附した。即ち六月十五日

第四編第八章の初校がまづ成つたが、これを校正しつつ一方に於て原稿を起草したのである。然るに後述の如く経費の関係又は人事處理の関係上次第に局員数を減少したる爲、資料の檢出に不自由を來たし、時には關係文書搜索の爲一日を徒費する場合すら生ずるに至つた。よつて校正の爲特に左記二名を臨時採用した。

加藤 武雄 池田 日出郎

かくて新稿は即ち本書であるが、本稿起草中は勿論印刷未了の時であるから、これが發送その他の記録を載せ得ないのは當然である。殘務整理部の豫定に於ては、本會議誌は専ら官廳、學校、圖書館、教育會、寄附者その他の關係者に無償配布することとなつてゐる。

第四節 記録 映畫

記録映畫の作成は、當初豫算にも豫計されてゐる如く、事務局開設當初よりの計畫であつたが、尙映畫教育部準備委員會に於ても、これが作成につき決議がなされた。事務局は書記免取慶一郎を記録映畫係に任じ、これが事務を掌理させることとしたが、文部省の中田俊造氏、外務省の土屋隼氏等の特別の配慮により、寫眞化學研究所(P.C.L)にこれが作成を委託することとした。よつて左記の打合會を開いた。

一、第一回記録映畫作成打合會(昭和十二年七月二十三日 午後二時)

出席者 文化施設部委員、總務委員 青木 節一
總務委員、映畫教育部準備委員 高田 寛

映畫教育部委員 土屋 隼
寫眞化學研究所 松谷常務取締役
事務局 主事 吉野伊豆雄
同 書記 免取慶一郎

この打合會に於て決定したる事項左の如し。

- 一、P.C.L社は事務局指定の經費内に於て記録映畫の作成を擔任すること。
- 二、撮影技師はP.C.L社の白井茂氏とすること。
- 三、事務局はフィルム千六百尺二巻を基準として脚本を作成すること。
- 四、脚本草稿は免取書記これを作成し、七月二十六日の第二回打合會に提出、關係特別委員はこれを檢討すること。
- 五、P.C.L社に於ては豫定尺數以外に撮影せるフィルムも全部これを事務局に提供すること。

二、第二回記録映畫作成打合會(七月二十六日 午後二時)

出席者	映畫教育部委員	稻田 達雄	土屋 隼	高田 寛
	P.C.L社	白井 茂	富山 詔藏	山下 良三
事務局	大島事務總長	松井 幹事	吉野 主事	免取 書記

この打合會に於ては、脚本の檢討を行つた結果左の如く決定。

- 一、事務局準備状況はこれを省略すること。
- 二、山中湖日本文化講座の状況は、藝術映畫社撮影に係るものを取捨選擇し、これに對し相當の補償をなすこと。
- 三、全編は國外参加者の記念品とする目的を以て編輯すること。

- 四、十六ミリフィルムにも共用し得るやう編輯製作すること。
 - 五、映畫は録音し、一部分シングルに撮影をすること。
 - 六、アナウンサーは事務局に於て適宜決定すること。
 - 七、次に掲ぐる各項は必ずこれを撮影し、細目は事務局擔當書記とP.C.L側に於て適宜協定すること。
 1. 龍田丸横濱着港
 2. 山中湖文化講座
 3. 代表者歓迎晩餐會
 4. 明治神宮參拜
 5. 總會(代表的のもの)
 6. 部會(代表的のもの)
 7. 招待團遊會
 8. 國內觀光狀況
- 尙餘裕あらば、(イ)東京市内觀光、(ロ)大宮地方見學、(ハ)教育展覽會、(ニ)生花展覽會、(ホ)武道見學、(ヘ)美術展覽會、(ト)日本舞踊見學等を附加すること。

以上の打合せにより、事務局は、アナウンサーの推薦方を日本放送協會に依頼し、海外放送係吉井壽雄氏の推薦を得て同氏に依頼した。又、一千六百尺二巻を以ては、記録映畫として不充分なりと認め、三千尺三巻に変更し、第二回打合せの時餘裕あらば追加すべき項目として豫定したるものを全部収録することとした。かくて試寫會の結果數箇所の訂正増補を行つて、昭和十二年九月二日完全なものとして納入を受けた。右フィルムの梗概左の如し。

第一卷

字 幕 (1) The Seventh Biennial Conference

(2) The World Federation of Education Associations

(3) August 2-7 1937, Tokyo

(4) Presented by the World Conference Committee of the Japan Education Association

(5) Produced by Photo Chemical Laboratory

一、龍田丸横濱入港

字 幕 代表横濱に到着

アナウンス——第七回世界教育會議は一九三七年八月東京に開催せられることとなり、教育の事業を更に進展せしめんことを期して世界各國の代表がこの地に參集した。

二、山中湖文化講座

字 幕 代表は日本文化講座の會に出席し富士の麗姿に接しつゝ、山中湖畔に楽しき日を送つた。

字 幕 榎山 愛 輔伯 永井 松三

字 幕 世界教育會議會長ポール・モンロー博士

アナウンス——此處は富士山麓の山中湖である。會議前の催たるこの日本文化講座は、特に外國代表の爲に國際文化振興會が開催せるものである。午前は講座に、午後はスポーツに、その他野外劇「竹取物語」を始め種々興味深い催が行はれた。

字 幕 東京へ

三、東京驛前の代表者

字 幕 歡迎

四、代表者歓迎晩餐會

字 幕——七月三十一日帝國教育會長永田秀次郎主催晩餐會
字 幕——帝國教育會長永田秀次郎

永田會長挨拶——只今小松君より御話がありました通り、私は目下病氣の爲に慶應病院へ入院中でございます。只今病院からこちらに出て参りました様な次第で、主人役として誠に不行届で御座いますことをまづおわび申上げておきます。外國よりおいでになりました皆様も最も日本滞在中愉快に御経過あらんことを偏に願ふ次第で御座います。これを以て私の御挨拶と致します。

モンロー會長挨拶——米國のある大統領、はつきりと申上げると初代ルーズベルト大統領であるが、たゞく黒人種に屬してゐた或る著名の教育家をその朝餐に招待して米國社交界に一大衝撃を與へたことがあつた。當時米國の社交界では、特に南部地方では——北部では單なる事務的行事に過ぎなかつたが——一種の聖餐と目されてゐるこの朝餐にかやうのことをするのは慣例に外れたことであつた。

五、明治神宮參拜

字 幕——八月二日會議が開催されるに先立ち、明治神宮に參拜した。

アナウンサー——明治大帝の聖靈に尊崇の誠を捧げ、自らの心を清めると共に、世界平和と人類の幸福の達成に更にその歩を進めんと祈願を籠めて、各國代表は今神宮聖域に進みつゝある。特有の母國の衣裳を身につけた人々の姿もその中に見られる。

六、會場會議

字 幕——部 會

字 幕——珠算演習會 三一號室 自一二時——至一二時四〇分

字 幕——初等教育部會、映畫教育部會、放送教育部會、地理教育部會、中等教育部會——大學及專門學校部會、成人教育部會、商業教育部會、理科教育部會、學校衛生部會、家庭及學校・就學前及幼稚園聯合部會

字 幕——インフオーメーション・ビューロー

アナウンサー——此處は第七回世界教育會議會場たる東京帝大の構内である。登録が始まつて諸般の情報供與に至るまで第一日は多忙の中に暮れた。總會は大講堂、部會は構内各教室及び一部を明治生命館講堂に開催した。各部會は午前九時より正午までの間に開催せられて論文の發表討論等が行はれ、部會參加者は炎暑にもめげず非常な熱心さを示した。世界各國の教育家の研究乃至教育の實績が發表論文に依つて紹介された。

第 二 卷

七、日本舞踊見學

字 幕——夜行はれる第一總會までの午後の時間を日本古典舞踊を見物。

接待部員解説——浦島は龜に乗つて故郷に歸る。こゝからこの踊りは始まるのである。地上の世界に歸つて來た彼は三日と思つたのが、實は三百年も経過してゐて、一切のものが變つてしまつて居り、兩親も友人も夙の昔に死んでゐる事を知

八、第一總會

字 幕——第一總會

字 幕——第七回世界教育會議總會場

永田會長挨拶——本日より第七回世界教育會議をこの所に開くに當りまして、茲に参加されました國の数は三十九ヶ國に及び、外國より態々來られた方、並びに日本に居られる方で御参加下さいました外國人を合せて約一千名、並びに日本帝國の教育代表者二千名、合せて三千名の諸君がこの一堂に會して居られるのでありまして、かくの如き盛大なる國際會議は未だ曾て我國に於て見ない所でありませぬ。

安井文部大臣挨拶——本夕茲に第七回世界教育會議第一總會の開催せらるゝに當りまして文政の衝に當るものとして、一言

御挨拶を申し上げる機会をいたしましたことは誠に欣幸とする所であります。

ケリー氏挨拶——東京市、府並びに日本帝國を代表せられてゐる貴賓諸賢

モンロー博士挨拶——議長、貴賓諸賢並びに代表者諸君、今宵我々の頂戴せる歓迎のお言葉に對し世界聯合教育會々長とし

て此處に會を代表し謝辭を述べざるを得るは私の光榮とし名譽とする處である。而もかやうなお言葉を頂戴するといふ事は

まことに嬉しい極みであるが、私として第一に申上げたい感想はこれはもう言葉に現して頂く必要はないといふこ

とである。英國にも同様の意味の言葉があると思ふが、西洋の諺に「行爲は言語よりも雄辯なり」といふ事がある。

九、東京帝大總長帝國教育會長共同主催園遊會

字 幕——東京帝國大學總長・帝國教育會長共同主催園遊會

一〇、東京府・市共同主催園遊會

字 幕——東京府知事東京市長の招待による園遊會が後樂園で開かれた。

アナウンス——會議の合同々々に東京に於ける最も美しい庭園の一たる後樂園に於て開催せられた東京府知事及び市長聯合

招待園遊會を始め諸種の社交的催が行はれた。

合同園遊會は澤山の茶菓その他の饗應で大變愉快なものであつた。

一一、觀劇その他の招待狀

字 幕——文部大臣招待の歌舞伎座にて八月三日八時より觀劇會の招待狀

一二、歌舞伎座

一三、外務大臣招待園遊會

字 幕——第七回世界教育會議國外参加者に對し外務大臣廣田弘毅氏が八月六日午後四時霞ヶ關離宮に招待された。

アナウンス——官邊各種文化團體の行へる代表歡迎の催の中には、歌舞伎座に於ける文部大臣招待觀劇會、霞ヶ關離宮に於

ける外務大臣招待園遊會等があつた。

一四、東京市内觀光

字 幕——東京市内觀光

(1) 教育會館(日本事務局)

(2) 靖國神社

(3) 湯島聖堂

(4) 上野公園

(5) 東京帝室博物館

(6) 時代風俗展覽會

(7) 築地本願寺

(8) 東京中央卸賣市場

(9) 帝國議事堂

第三卷

一五、教育展覽會

字 幕——茶の湯

アナウンス——會議に附屬せる催物の一つとして事務局主催の下に東京女子高等師範學校に於て日本の教育と文化に關する

展覽會が開催された。十八部會を中心とせる陳列は別として、第一會場に於ける展覽品は日本に於ける古代より現代に至

る教育の歴史を説かんとせるものである。あるものは日本精神の起源を示し、又茶の湯に關する陳列の如きは昔時に於け

る我國の精神教育を示す。

字 幕——日本の水草

これは生徒の實驗材料並びに實驗狀況を示す理科教室である。我國理科教育の特徴を示す理科教材も陳列されてゐる。

幕——六月の祭禮

就學前及幼稚園部に於ける陳列中、祭禮と祭禮に於ける子供の役割を示す。人形を以て示すのは街頭をかついで練り歩く神輿である。神輿は祭禮に於ける最も神聖なるものの一である。

幕——九月の月見

これは九月の月見に於ける團子と秋草の供へ物である。これは正月の羽根突きに使ふ羽子板である。風鈴の鳴るこの涼氣に満ちた風景は女高師附屬幼稚園の「遊ひの庭」である。この涼しい日蔭はこゝに遊ぶ代表者達にとつて誠に嬉しいものであつた。

これは生徒の手藝品作製の實演狀況を示す。盛装せる學生が財布や人形等を作つてゐる。

一六、生花展覧會

幕——主催世界教育會議日本事務局、八月三、四、五日 生花展覧會

アナウンス——生花は日本の園藝の一つの特徴であつて、茶の湯と共に禮儀作法、品性、趣味を養ふ源泉となつてゐる。

一七、現代日本畫名作展覧會

幕——現代美術展覧會

一八、日本武 道

幕——武 道

アナウンス——次に示す場景は早稻田大學講堂及び武道場に於て行はれた日本武道の實演である。日本の武道は武士道精神の發達に伴つて發達したものであつて、護身の爲と云ふよりも精神の修養と肉體の鍛練を目的とする。加ふるにこれは常に敵に對して禮を重んじ敬意を失ふべからざることを教へるものである。

幕——兼 刀

こゝに女學生の示す薙刀は、古くより婦人の護身用として用ひられたもので、現在は身心鍛練の方法として重要視せられ

てゐる。

幕——柔 道

これは柔道である。

一九、字 幕

代表は階層にも拘らず三つの總會と十八の部會に毎日出席し熱心に且效果的なる検討及び研究をなした。

二〇、大宮地方見學

幕——片倉製絲見學

幕——鐵道省大宮工場

二一、國內旅行

幕——代表は一週間を東京に送つた後東京に別れを告げ日本見物の旅へと出發した。

幕——日 光

幕——箱 根

幕——宮 島

幕——阿 蘇

二二、出 發

幕——一路平安を祈る

アナウンス——外國代表と我々との交歓の日は餘りにも短か、つたが、この短期間に於て外國代表諸氏がよく日本を理解下されたことは我々日本人として感謝の外はない。この會議が教育を通じて國際親善と相互の理解とに貢献せる所は多大であつて、我々のまことに欣快とする所である。こゝに會議に列せられた紳士淑女の御勞苦と御熱誠とに深甚の感謝の意を表し、併せて各位の御健康と再會の機會とを祈る。

この記録映畫は七本を作成し、二本を帝國教育會備付とし、五本中三本は世界聯合教育會本部へ、二本はアメリカ駐在日本大使館備付用として寄贈した。このアメリカへ送付した五本は、昭和十三年四月渡米せる第七回世界教育會議殘務整理部囑託東ヶ崎潔が携行したのであるが、尙通關手續その他につき本部へ出張打合せを行つた。この記録映畫五本は、アメリカ合衆國にあつて、今日日本認識の手段として、大いに利用せられつゝあるのである。

尙一言すべきは、記録映畫作成當初の計畫では、標準尺のトーカー版を十六ミリのサインント版に改作し、これを外國参加者の需に應じて有償に頒布するの案であつた。然るに日支事變の進展につれ十六ミリフィルム入手絶望となつたので、この計畫を抛棄せざるを得なかつた一事である。

第五節 寫 眞 帖

會議の情況を寫眞に撮つて、記録とすることは豫算編成當時に決定はしてゐなかつたが、映畫を數多く作り得ないのに鑑み寫眞記録も缺くべからざるものとして、これが作成に従つた。事務局はジー・チー・サン商會を指定して會議及び接遇等の情況を撮影せしめた。而して教育展覽會の分(次掲二)はこれを速成して、八月八日芝紅葉館に於て開催された世界聯合教育會役員慰勞招待會の席上これを贈呈した。寫眞帖は左の三種を作成したのである。

- 一、記録用教育展覽會寫眞帖
- 二、教育展覽會寫眞帖 (Photographic Album of Education Exhibition)
- 三、第七回世界教育會議記録寫眞帖 (Photographic Record of the Seventh World Education Conference)

右の中一は帝國教育會備付用三部を作成したに過ぎず、而も三部の中後日に於て一部は早稻田大學に、一部は國際文化振興會にそれゝ寄贈した。

又二は前記の如く世界聯合教育會役員十名に贈呈した以外は、帝國教育會備付用二部を作成したに過ぎない。唯三はこれを左の如く複製した。

- | | | |
|---|------------------|--------|
| 甲 | 種 (網張裝釘、寫眞版) | 一、〇〇〇部 |
| 乙 | 種 (網張裝釘、コロタイプ版) | 五〇〇部 |
| 丙 | 種 (ズツク裝釘、コロタイプ版) | 一、五〇〇部 |

而して宮内省の内意を伺つた上、左記文書を以て文部大臣に記録寫眞帖の献上願傳達方を依頼しその献上を願つた。

世教第一五八八號ノ一

昭和十三年三月三日

文部大臣 侯爵 木 月 幸 一殿

帝國教育會長 永 田 秀 次 郎

第七回世界教育會議記録寫眞帖ニ關スル件

昭和十二年八月二日ヨリ同月七日迄東京ニ於テ開催相成候第七回世界教育會議ハ四十三個國ノ教育者八六九名並國內在住外國参加者一〇名及び我國教育關係者二、三〇〇名ノ参加アリテ、各種教育問題ノ研究討議ヲ重ネ斯道ノ進歩發達ニ資シタルハ素ヨリ、内外教育者相互ノ提携協調ヲ密接ナラシメ國際親善ニ貢獻スル所亦尠カラザルモノ有之候右機會ニ於テ我が教育文化、産業、藝術等諸般ノ實情ヲ闡明シ、以テ外人教育者ニ眞ノ日本ヲ認識セシムルコトヲ得タルハ主催者ヲ初メ關係者一同ノ

欣幸トスル所ニ御座候就テハ今般本會議ノ情況ヲ收錄、寫眞帖ヲ作成致候ニ付

天皇

皇后

皇太后三陛下並ニ秩父宮 高松宮 三笠宮 閑院宮 東伏見宮 伏見宮 山階宮 賀陽宮 久通宮 梨本宮 朝香宮 東久
通宮 北白川宮 竹田宮各宮家ニ右寫眞帖ヲ獻上仕度候間可然御取計相願度別紙獻上願相添此段及御依頼候也
追テ本件ニ關シテハ宮内大臣官房總務課獻上係ト打合セノ結果同省ヨリ採納回答ノ依テテ獻上スベキ旨通知有之候ニ付テハ
右副本トシテ一部技許添付致置候條右御了知ノ上併セテ轉達方御取計相願度同係ヨリ來示ノ次第モ有之爲念申添候

獻 上 願

十七部

一、第七回世界教育會議記錄寫眞帖
右ハ昭和十二年八月二日ヨリ同月七日迄東京ニ於テ開催相成タル第七回世界教育會議(米國ワシントンニ本部ヲ置ケ世界聯
合教育會主催ニ係リ其ノ準備一切ハ帝國教育會第七回世界教育會議日本事務局ニ於テ之ニ當レリ)ノ情況並本會議ニ出席セル
内外教育代表三千有餘名ノ國際的交遊及ビ主トシテ外國代表ノ視察鑑賞ニ供シタル諸般ノ文化施設トシテ接遇狀況其他ノ記錄
トシテ編輯セル寫眞帖ニ有之、本會議ハソノ本來ノ目的タル世界ノ教育教授ノ進歩發達ニ貢獻シ各國教育者相互ノ提携協調ノ
實ヲ舉ゲ國際親善ニ寄與シタルノミナラズ、我が朝野各方面ノ多大ナル協力ニ依リ我が教育、文化、産業、藝術其他諸般ノ實
情ヲ開明シ、是等参加外人ヲ通ジテ我が國體ノ眞髓ヲ宣揚シ、又一面文化的國民外交ノ機會タラシメ、克ク本會議所期ノ成果
ヲ收メタル次第ニ有之候

天皇

皇后

就テハ如上ノ意義深キ國際會議開催ノ記念トシテ頭書寫眞帖ハ好箇ノ資料ト被存候ニ付

皇太后三陛下並ニ 秩父宮 高松宮 三笠宮 閑院宮 東伏見宮 伏見宮 山階宮 賀陽宮 久通宮 梨本宮 朝香宮 東久
通宮 北白川宮 竹田宮ノ各宮家へ奉獻仕度候條御採納方御執成被下度此段奉願候也
昭和十三年三月三日

獻上者

東京市神田區一ツ橋教育會館

帝國教育會長

永田秀次郎

宮内大臣

松

平

恒

雄

殿

右に對し四月五日附文部大臣官房秘書課長より左記文書が送付された。

雜秘五〇號

昭和十三年四月五日

文部大臣官房秘書課長

帝國教育會長殿

通 牒

本年三月三日附世教第一五八八號ノ一ヲ以テ第七回世界教育會議記錄寫眞帖傳獻方文部大臣宛御願出ノ處右ハ御採納可相成
旨別紙寫ノ通り宮内大臣ヨリ通牒有之タルニ付御了知相成度

宮内大臣官房秘書課 官發第一二八號

昭和十三年四月四日

宮内大臣

松

平

恒

雄

文部大臣 侯爵

木

戸

幸

一殿

一、第七回世界教育會議記錄寫眞帖

十七部

第五編 庶務

七七七

右帝國教育會長永田秀次郎ヨリ献上願出ノ儀御照會有之候處採納可相成候條現品當省官房總務課へ差廻相成度

右により文部省より奉獻の手續を了されたが、左の文書を送付された。

雜秘五〇號

昭和十三年四月十一日

文部大臣官房秘書課長

帝國教育會長殿

第七回世界教育會議記録寫眞帖 三部

右

天皇陛下

皇后陛下

皇太后陛下御採納被遊タル旨別封ノ通り宮内大臣ヨリ通知アリタルニ付御了知相成度

右に所謂別封は、第一編第四章第一節に寫眞により掲げた宮内大臣よりの御採納の旨の通知である。

又、四月二十七日には、文部大臣官房秘書課長より左記の文書の送付を受けた。

雜秘五〇號

昭和十三年四月二十七日

文部大臣官房秘書課長

帝國教育會長殿

第七回世界教育會議記録寫眞帖 十四部

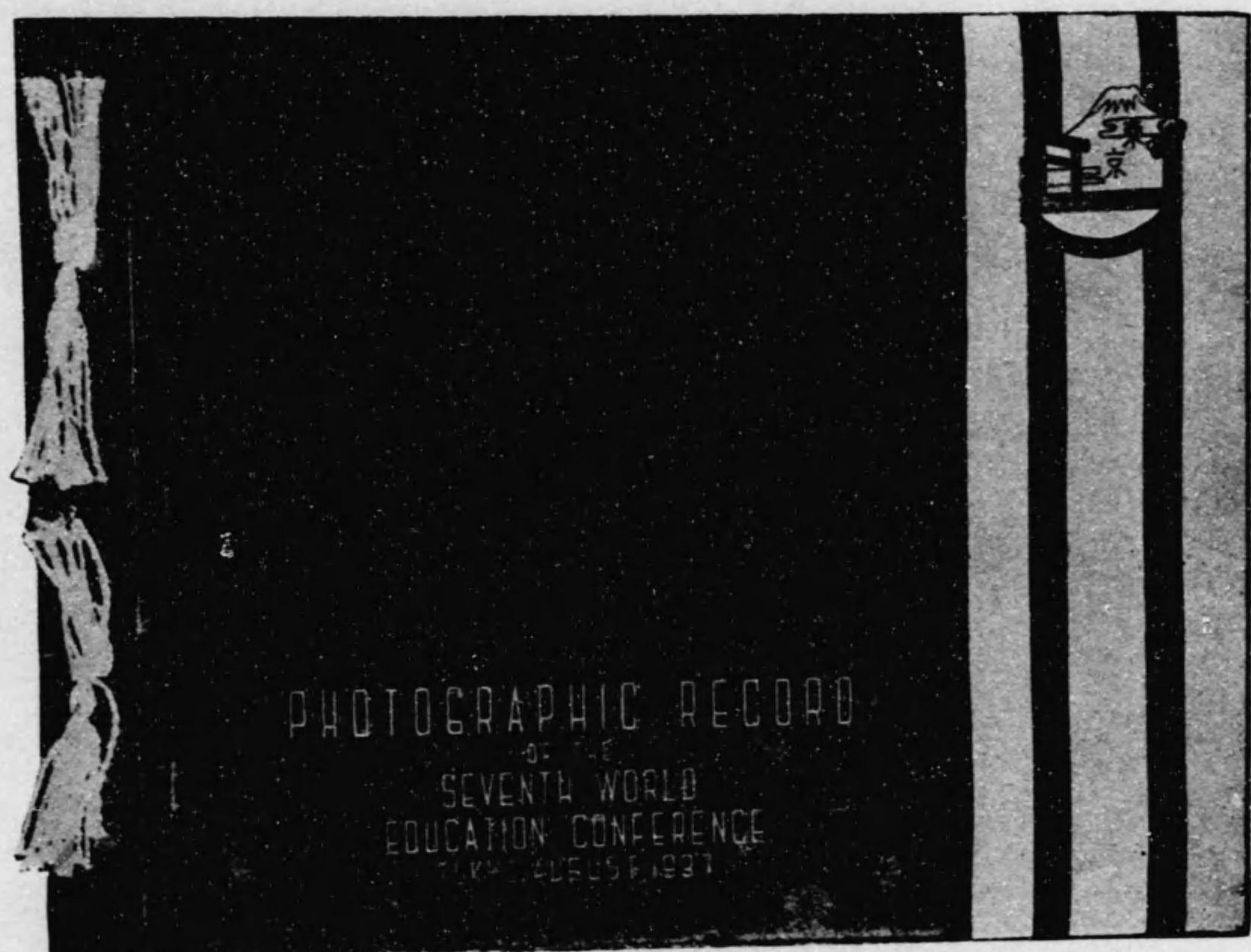
右

秩父宮殿下外十三宮殿下御採納被遊タル旨別封ノ通り宗秩寮總裁ヨリ通知有之タルニ付御了知相成度

右に所謂別封も、第一編第四章第一節に寫眞により掲出した。

この献上せる記録寫眞帖以外は昭和十二年十二月十三日より左の如く寄贈をなした。

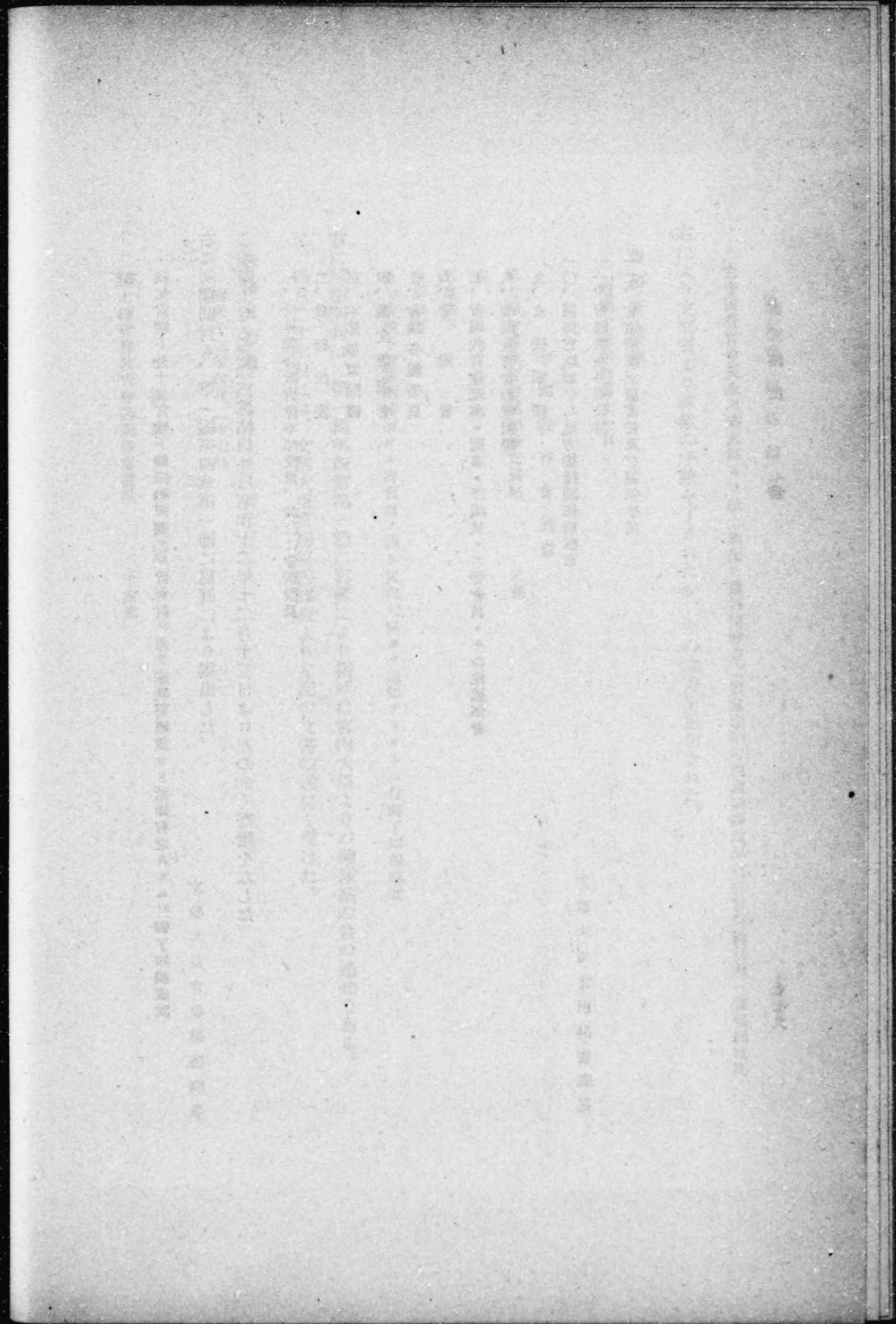
- 一、世界聯合教育會本部役員、並びに會議役員
- 二、政府代表
- 三、本部加盟團體
- 四、論文發表者
- 五、會議各種委員
- 六、寄附者
- 七、帝國教育會理事・監事・評議員・名譽會員・その他關係者
- 八、帝國教育會加盟團體
- 九、支援團體
- 一〇、關係官廳並びに地方接待關係府縣市
- 一一、帝國駐在外國公館
- 一二、官道府縣立圖書館及び關係學校

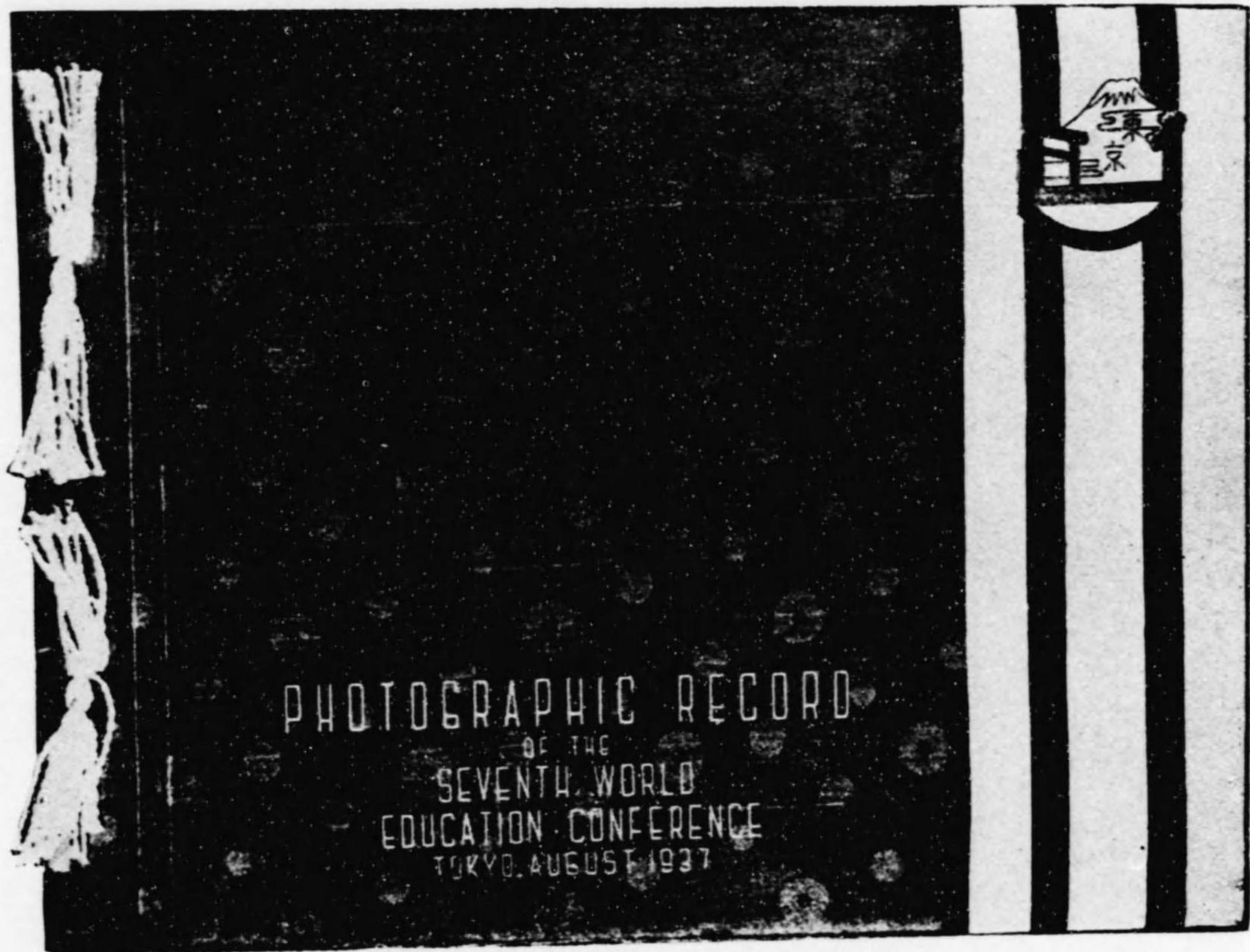


(種 二 乙 甲) 帖 眞 寫 議 會 育 教

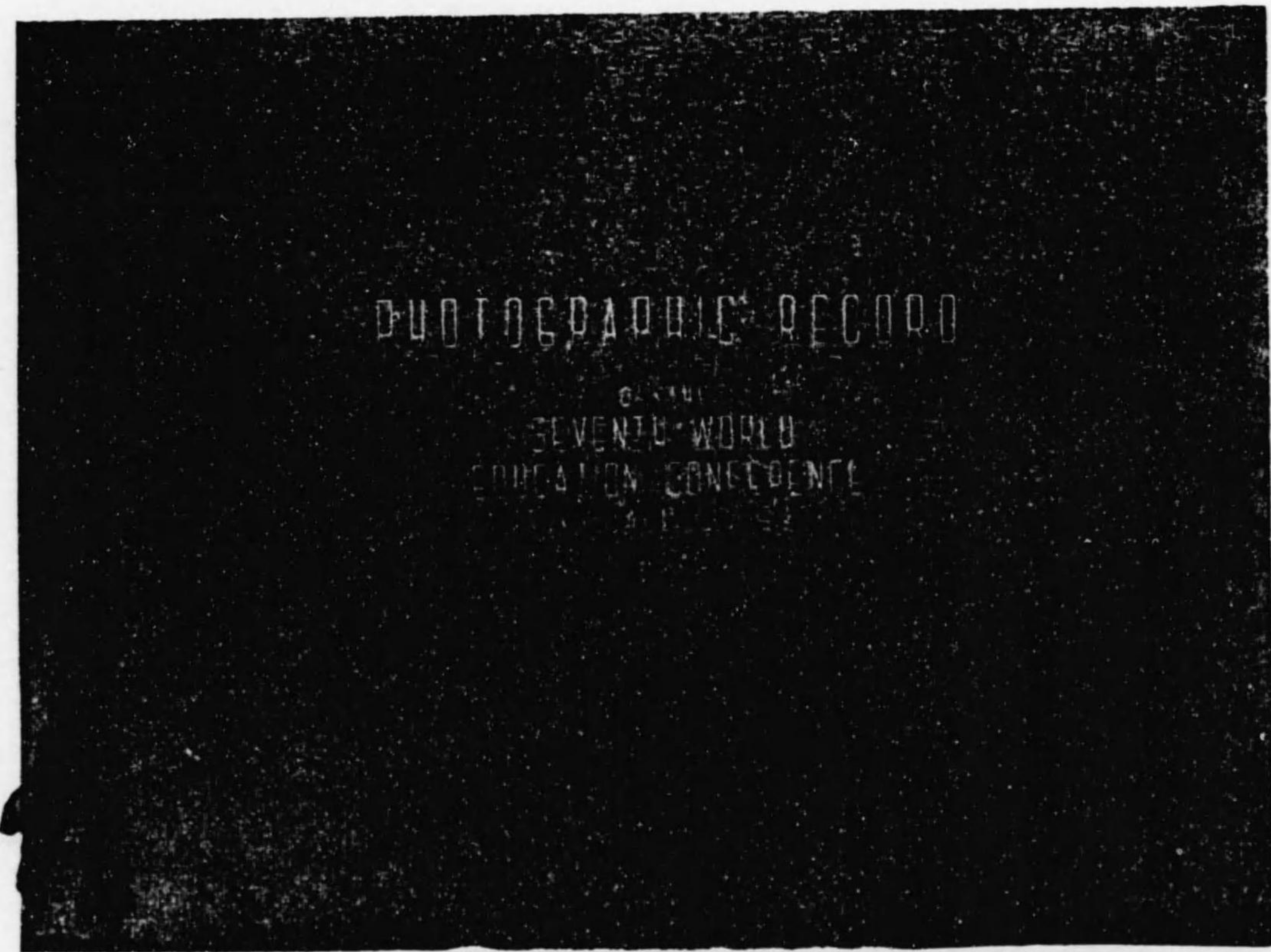


(種 丙) 帖 眞 寫 議 會 育 教



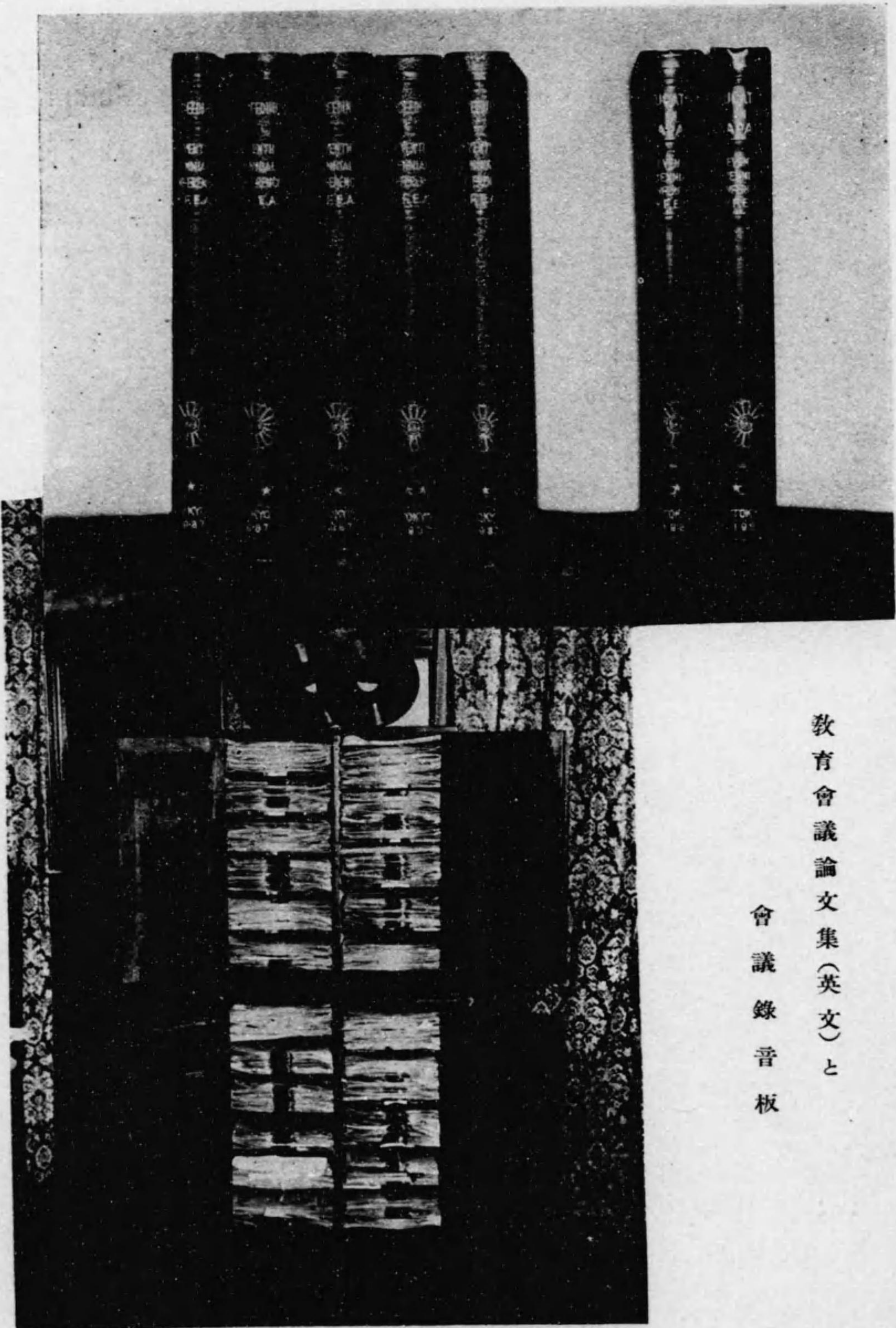


(種 二 乙 甲) 帖 眞 寫 議 會 育 教



(種 丙) 帖 眞 寫 議 會 育 教

教育會議論文集(英文)と
會議錄音板



第六章 殘務整理

殘務整理部 世界教育會議終了直後の殘務は、日本事務局これを處理したが、昭和十二年九月一日を以て、右事務局を解散し新たに第七回教育會議殘務整理部を設置することとなつた。然しこの殘務整理部は日本事務局の局員を大部分引續いたものであるから、形式上はともかくとして實質上は日本事務局の延長である。唯從來の事務局員たる幹事・主事・書記・雇は全部これを囑託としたのである。殘務整理部の規程は左の如し。

第七回世界教育會議殘務整理部規程

- 第一條 帝國教育會ニ第七回世界教育會議殘務整理部(以下整理部ト略稱ス)ヲ置ク
- 第二條 整理部ハ第七回世界教育會議殘務整理ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第三條 整理部ニ事務囑託ヲ置キ前條ノ事務ヲ分掌セシム
- 事務囑託ハ帝國教育會長之ヲ依囑ス但第七回世界教育會議日本事務局(以下事務局ト略稱ス)廢止ノ際在職セル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズシテ前項ノ事務囑託ヲ依囑セラレタルモノトス
- 第四條 事務囑託ニシテ事務局幹事ノ職ニ在リシ者ハ會長ノ命ヲ承ケ整理部事務ヲ掌理ス
- 事務局主事・書記・囑託ソノ他ノ職ニ在リシモノハ別ニ定ムルモノノ他事務局ニ於ケル事務分掌ニ準シ整理部事務ヲ分掌スルモノトス

第六章 殘務整理

七八二

第五條 整理部ニ於ケル文書會計事務ハ事務局文書會計事務内規ニ依リ之ヲ行フ

第六條 事務囑託ノ手當ハ特ニ辭令ヲ交付セラレタルモノヲ除キ事務局廢止ノ際受ケタル俸給ノ額ト同額トス

附 則

第一條 本規程ハ昭和十二年九月一日ヨリ施行ス

第二條 本規程ニ掲グルモノノ外事務局ノ爲ニ定メタル規程内規並帝國教育會諸規程ヲ準用スルモノトス

殘務整理事務 殘務整理部に於て實際處理した事項中、主要なるものを列記すると左の如くである。

一、財務會計關係

1. 未拂分の整理事務（本編第四章參照）
2. 寄附金の整理並びに剩餘金處分關係事務（同上參照）
3. 教育者職金並びに教育團體負擔金の整理事務（同上參照）
4. 募金の收支決算報告事務（同上參照）
5. 決算事務（同上參照）
6. 會計検査に伴ふ事務（同上參照）
7. 物品會計事務（同上參照）
8. 物品その他の整理又は引續事務

二、人事關係

1. 舊局員就職斡旋その他人事處理に關する事務

三、庶務關係

1. 支援團體に對する報告事務
2. 文書整理並びに引續

3. 記録寫眞帖献上に關する事務（前章參照）
4. 會議誌その他の記録資料蒐集事務（同上參照）
5. 會議記録の印刷並びに發送（同上參照）
6. 會議誌編集事務（同上參照）
7. 新聞雜誌記事蒐集事務（同上參照）

四、會議關係

1. 會議記録の編集事務（前章參照）
2. 録音板複製並びに希望者に分與するに要する事務（前章第二節參照）
3. 記録委員會に關する事務（前章參照）
4. 參加者名簿作成事務（第四編第三章第二節參照）
5. 長期滞在見學希望國外參加者の案内に關する事務
6. 珠算競技會參加學生生徒表彰に關する事務（第二編第二章第二節參照）

五、接遇關係

1. 教育展覽會生花展覽會等の出品者に對する感謝狀に關する事務（第四編第五章第五節第六項及び第四編第八章第十二節參照）
2. 教育展覽會出品物返送に關する事務

右の中既に述べたる事項を除き、主要なる事務二三を記録する。

文書整理 文書の整理は、本編第二章記述の如く、日本事務局開設以來常時これを行つて居たのであつて、殘務事務として、特に整理の必要を見ないのであるが、尙検索の便の爲め各文書綴毎に索引を設け、又文書件名簿に所在

文書綴名を記入した。文書綴は、庶務・會議・會場・接遇關係三〇二冊、會計關係八五冊、人事秘書關係二冊計三八九冊に上る。

人事處理 會議終了直後の日本事務局員は左の如くであつた。

事務局長	一名	幹事	一名	主事	一名
嘱託	八名	書記	二二名	雇	一八名
工手	四名	給仕	七名	合計	六二名

これに接待部員にして局の事務處理を依頼したものの四〇名があつたから、合計一〇一名の大世帯であつて、四つの事務室に分れて執務して居た。右の中接待部員は學生又は女子専門學校の卒業生その他であつて、各關係學校長の推薦により、好意的に會議事務（主として接待）の掌理に當つてもらつたのであり、その擔當事務の終了により、當然にその地位を解消せしめて何等支障がない人々であつた（もつともこれら接待部員に對しても就職の希望者には、日本放送局その他へ紹介の勞を執つた）。

然るに事務總長を除く前記六一名は悉く事務局廢止により失職するものである。もつとも此等の人々の採用の時には、昭和十二年八月末日を以て解職すべきことを條件としたのであるから、この期日の到來により當然解職して、何等酷なる處置なりとの批難は生ずる餘地がない筈である。唯本編第二章第四節に記述した如く事務局はこの解職期の到來近づくに従ひ、局員中に今後の生活上の不安を感じ、その不安が執務上にも反響するものあるにより、七月中に第一に出來得る限り就職先の斡旋を考慮する旨を發表し、更に八月末日解職の豫約を變じて十月末日まで延長し、その間に於て各自就職先を奔走すべき旨を指示したのである。

而して、事務局に於て帝國教育會理事會の席上局員就職先斡旋の助力を求めると共に、事務總長以下出動して就職先の發見に力めた。かくて就職先決定者より漸次解職する方針を執つた。然しながら、この方法にも一二の無理な要求が存在した。即ち、

- 一、職務整理事務の爲、缺くべからざる局員は、事務の都合上なるべく殘留せしめたきも、これらは大概優秀局員なる爲、就職先の發見容易なる爲、殘留整理事務に支障を來たし勝ちなること。
- 二、職務整理事務には、さまで必要ならざる局員は、却つて就職口少きため、殘留し居つて局員の執務心に悪影響を及ぼす虞れありしこと。
- 三、職務整理事務の中心となれる記録編纂事務は會議準備事務と性質を異にするものある爲、前者の適任者必ずしも後者の適任者となすことを得ず、従つて職務整理部はこの意味より現在局員を解職してまでも、新規採用をなす必要に迫られたこと。

これらの諸難點あるに拘らず、事務局は極力局員就職口發見に奔走して、その將來の生活の保障を與へるに努めた。かくて事務局の手を経ずして自身轉職し得たもの十五名あつたが、結局事務局の手によつて就職せしめ得たもの三十四名に上つた。殘餘の十二名中には入營者二名、外遊者二名並びに就職先斡旋不要のもの七名、計十一名があつたから未就職者は二名のみとなつた。然るにこの二名は幹事と主事とであるから、幹部以外は全部就職したこととなつたのである。三十四名の多數を少數幹部の手で就職せしめることは、實は本會議事務處理中最も苦勞多かつた仕事であることは、否めなかつた。これは社會的背景少くして且つこの難局に主として當つた松井幹事・吉野主事・東ヶ崎囑託三名の力量に對して批判されるべきことではあるが、一方職務整理事業の完全なる遂行といふ本來の職務を有

教育團體醴金

臺灣教育會	五〇〇〇〇	神奈川縣教育會	一〇〇〇〇〇	岡山教育會	五〇〇〇〇
南滿洲教育會	五〇〇〇〇	橫濱市教育會	一〇〇〇〇〇	廣島縣教育會	一〇〇〇〇〇
樺太教育會	五〇〇〇〇	兵庫縣教育會	一〇〇〇〇〇	吳市教育會	五〇〇〇〇
北海道聯合教育會	一〇〇〇〇〇	神戶市教育會	一〇〇〇〇〇	尚志會	五〇〇〇〇
函館教育會	五〇〇〇〇	長崎縣教育會	一〇〇〇〇〇	山口縣教育會	五〇〇〇〇
小樽教育會	五〇〇〇〇	長崎市教育會	五〇〇〇〇	和歌山縣教育會	五〇〇〇〇
札幌教育會	五〇〇〇〇	新潟縣教育會	一〇〇〇〇〇	和歌山市教育會	五〇〇〇〇
帝都教育會	一〇〇〇〇〇	新潟市教育會	五〇〇〇〇	德島縣教育會	五〇〇〇〇
茗溪會	一〇〇〇〇〇	埼玉縣教育會	一〇〇〇〇〇	香川縣教育會	五〇〇〇〇
帝國盲教育會	五〇〇〇〇	群馬縣教育會	一〇〇〇〇〇	愛媛縣教育會	五〇〇〇〇
師範學校長協會	五〇〇〇〇	高崎市教育會	五〇〇〇〇	高知縣教育會	五〇〇〇〇
櫻蔭會	五〇〇〇〇	千葉縣教育會	一〇〇〇〇〇	福岡縣教育會	一〇〇〇〇〇
全國聯合小學校教員會	五〇〇〇〇	茨城縣教育會	一〇〇〇〇〇	大分縣教育會	五〇〇〇〇
全國聯合小學校女教員會	五〇〇〇〇	栃木縣教育會	五〇〇〇〇	佐賀縣教育會	五〇〇〇〇
淺草區教育會	五〇〇〇〇	奈良縣教育會	五〇〇〇〇	熊本縣教育會	一〇〇〇〇〇
大森區教育會	五〇〇〇〇	奈良市教育會	五〇〇〇〇	鹿兒島縣教育會	一〇〇〇〇〇
教育評論協會	五〇〇〇〇	佐保會	五〇〇〇〇	沖繩縣教育會	五〇〇〇〇
京都市教育會	一〇〇〇〇〇	三重縣教育會	五〇〇〇〇	南洋群島教育會	五〇〇〇〇
京都市教育會	一〇〇〇〇〇	愛知縣教育會	一〇〇〇〇〇		
大阪府教育會	一〇〇〇〇〇	名古屋市教育會	一〇〇〇〇〇		
大阪府教育會	一〇〇〇〇〇	豊橋市教育會	五〇〇〇〇		
大阪市教育會	一〇〇〇〇〇				

教育關係醴金

計 五、三〇〇〇〇



有隣實務女學校	有隣實務青年學校	深草第一小學校	新道小學校	納所小學校	待和第一小學校	深草第二小學校	京都市第三高等小學校	羽豐小學校	伏見南濱幼稚園	伏見南濱幼稚園	修學院實務女學校	修學院實務女學校	向島小學校	第二待風小學校	待賢幼稚園	待賢幼稚園	第五商業青年學校	豐正小學校	豐國幼稚園	豐國幼稚園	立誠小學校	成德小學校	成德小學校	新到小學校	吉祥院小學校	
吉祥院實務女學校	吉祥院實務青年學校	伏見第三小學校	教養小學校	嘉樂小學校	下鴨小學校	仁和小學校	銅野小學校	八野小學校	乙訓第二小學校	乙訓第二小學校	神戶小學校	神戶小學校	神山小學校	長法寺小學校	石作小學校	大枝小學校	八幡小學校	八幡小學校	八幡小學校	八幡小學校	八幡小學校	八幡小學校	八幡小學校	八幡小學校	八幡小學校	八幡小學校
清野小學校	加茂小學校	上野小學校	笠置小學校	相樂小學校	西和東小學校	中東小學校	山田東小學校	東和東小學校	木津第一小學校	高仁第一小學校	大河原小學校	龜岡小學校	有秋小學校	種善小學校	安祥小學校	本梅小學校	千歲小學校	保津實業青年學校	保津實業青年學校	馬路小學校	吉富小學校	內久保小學校	博習小學校	大野小學校	東木梅小學校	
國部第二小學校	下和知小學校	國部第一小學校	三ノ宮小學校	竹野小學校	高野小學校	西木梅小學校	世木小學校	明木小學校	八木小學校	河邊小學校	綾部青年學校	綾部青年學校	中筋小學校	中筋小學校	以久田青年學校	以久田青年學校	佐賀青年學校	佐賀青年學校	佐賀青年學校	佐賀青年學校	物部青年學校	志賀青年學校	志賀青年學校	志賀青年學校	志賀青年學校	志賀青年學校
東八田小學校	山家青年學校	山家青年學校	口上林青年學校	口上林青年學校	中上林青年學校	中上林青年學校	奧上林青年學校	奧上林青年學校	奧上林青年學校	奧上林青年學校	公認小學校	上野小學校	大正小學校	昭和小學校	明倫小學校	漆原小學校	池內小學校	福井青年學校	福井青年學校	福井青年學校	福井青年學校	福井青年學校	福井青年學校	福井青年學校	福井青年學校	福井青年學校
青井實業青年學校	青井實業青年學校	青井實業青年學校	新野小學校	新野小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校	朝來小學校

吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	吉原實業青年學校	
宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	宮津高等女學校	
修道小學校	平屋小學校	下夜久野小學校	西別院小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	鶴ヶ岡小學校	
第二野田小學校	第三野田小學校	第四野田小學校	第五野田小學校	西九條小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	春日出高等小學校	
江戶小學校	明治小學校	廣教小學校	西六小學校	高台小學校	日吉小學校	花園小學校	本國小學校	安治川小學校	九條第一小學校	九條第二小學校	九條第三小學校	九條第四小學校	九條第五小學校	九條第六小學校	九條第七小學校	九條第八小學校	九條第九小學校	九條第十小學校	九條第十一小學校	九條第十二小學校	九條第十三小學校	九條第十四小學校	九條第十五小學校	九條第十六小學校	九條第十七小學校	九條第十八小學校	九條第十九小學校

大阪府

四、三六〇、一〇

大阪府教育會報

大阪市教育會報

高階尋常高等小學校
 福原尋常高等小學校
 日東尋常高等小學校
 太田尋常高等小學校
 田面尋常高等小學校
 名都北尋常高等小學校
 名都南尋常高等小學校
 鶴瀨尋常高等小學校
 南畑尋常高等小學校
 水谷畑尋常高等小學校
 宗岡尋常高等小學校
 山口尋常高等小學校
 吾妻尋常高等小學校
 小手指尋常高等小學校
 富岡尋常高等小學校
 柳瀬尋常高等小學校
 豐岡尋常高等小學校
 豐岡青年學校
 東金子尋常高等小學校
 金子尋常高等小學校
 元狹山尋常高等小學校
 宮寺尋常高等小學校
 三ヶ島尋常高等小學校
 藤澤尋常高等小學校
 入間川尋常高等小學校
 須藤尋常高等小學校
 奧高尋常高等小學校
 霞ヶ關尋常高等小學校

柏原尋常高等小學校
 水宮尋常高等小學校
 坂戸尋常高等小學校
 藤呂尋常高等小學校
 三芳野尋常高等小學校
 入西尋常高等小學校
 大家尋常高等小學校
 鶴ヶ島第一尋常小學校
 鶴ヶ島第二尋常小學校
 越生尋常高等小學校
 二栗尋常高等小學校
 毛呂小學校
 山根小學校
 第一梅園尋常高等小學校
 第二梅園尋常高等小學校
 東雲尋常高等小學校
 第一所澤尋常高等小學校
 第二飯能尋常高等小學校
 高麗川尋常高等小學校
 高麗尋常高等小學校
 精明尋常高等小學校
 原市場尋常高等小學校
 赤澤小學校
 中野小學校
 南高麗尋常高等小學校
 長澤尋常高等小學校
 吾野尋常高等小學校
 坂石小學校
 北川小學校
 南川小學校

南山小學校
 宮前尋常高等小學校
 福田尋常高等小學校
 八和田尋常高等小學校
 小川尋常高等小學校
 竹澤尋常高等小學校
 大河尋常高等小學校
 平尋常高等小學校
 玉川尋常高等小學校
 龜井尋常高等小學校
 今井尋常高等小學校
 中山尋常高等小學校
 伊草尋常高等小學校
 三保谷尋常高等小學校
 出丸尋常高等小學校
 八ッ保尋常高等小學校
 小見野尋常高等小學校
 東吉見第一尋常小學校
 東吉見第二尋常小學校
 南吉見尋常高等小學校
 西吉見尋常高等小學校
 北吉見尋常高等小學校
 大宮尋常高等小學校
 原谷尋常高等小學校
 久那尋常高等小學校
 影森尋常高等小學校
 尾田尋常高等小學校
 倉尾尋常高等小學校
 兩神尋常高等小學校

曾野尋常高等小學校
 三澤尋常高等小學校
 白鳥尋常高等小學校
 野上尋常高等小學校
 國神尋常高等小學校
 金澤尋常高等小學校
 日野尋常高等小學校
 大田尋常高等小學校
 白川尋常高等小學校
 大淵尋常高等小學校
 大川尋常高等小學校
 本庄尋常高等小學校
 藤田尋常高等小學校
 仁手尋常高等小學校
 旭尋常高等小學校
 北泉尋常高等小學校
 兒玉尋常高等小學校
 共和尋常高等小學校
 金屋尋常高等小學校
 秋平尋常高等小學校
 野村尋常高等小學校
 丹莊尋常高等小學校
 神保尋常高等小學校
 賀美尋常高等小學校
 長崎尋常高等小學校
 七本木尋常高等小學校
 渡瀬尋常高等小學校
 阿久原尋常高等小學校
 本泉小學校

太敷尋常高等小學校
 大澤尋常高等小學校
 久下尋常高等小學校
 佐谷尋常高等小學校
 吉見尋常高等小學校
 市田尋常高等小學校
 吉岡尋常高等小學校
 御正尋常高等小學校
 小原尋常高等小學校
 大藤尋常高等小學校
 三尻尋常高等小學校
 玉井尋常高等小學校
 奈良尋常高等小學校
 長井尋常高等小學校
 妻沼尋常高等小學校
 小島尋常高等小學校
 小田尋常高等小學校
 藤澤尋常高等小學校
 深谷尋常高等小學校
 大寄尋常高等小學校
 新會尋常高等小學校
 中瀬尋常高等小學校
 八基尋常高等小學校
 岡部尋常高等小學校
 藤澤尋常高等小學校
 本郷尋常高等小學校
 藤澤尋常高等小學校
 武川尋常高等小學校
 花園尋常高等小學校

用上尋常高等小學校
 寄居尋常高等小學校
 櫻澤尋常高等小學校
 男妻尋常高等小學校
 折原尋常高等小學校
 鉢形尋常高等小學校
 本島尋常高等小學校
 忍町南尋常高等小學校
 中條尋常高等小學校
 南河原尋常高等小學校
 北河原尋常高等小學校
 忍町北尋常高等小學校
 星宮尋常高等小學校
 忍町西尋常高等小學校
 太井尋常高等小學校
 下忍尋常高等小學校
 忍町東尋常高等小學校
 荒木尋常高等小學校
 須賀尋常高等小學校
 太田第一尋常高等小學校
 太田第二尋常高等小學校
 瑞玉尋常高等小學校
 原島尋常高等小學校
 廣田尋常高等小學校
 笠原尋常高等小學校
 羽生尋常高等小學校
 新郷尋常高等小學校
 須影尋常高等小學校
 岩瀬尋常高等小學校
 川保尋常高等小學校

群馬縣

群馬縣教育會

一、二、八、二〇

井泉尋常高等小學校
 牛島尋常高等小學校
 手十林尋常高等小學校
 三田ヶ谷尋常高等小學校
 村君尋常高等小學校
 加須尋常高等小學校
 加須青年學校
 加須資料幼稚園見所
 騎西尋常高等小學校
 志多見尋常高等小學校
 田ヶ谷尋常高等小學校
 共和尋常高等小學校
 種足尋常高等小學校
 高橋小學校
 禮羽尋常高等小學校
 不動岡尋常高等小學校
 豐野尋常高等小學校
 三俣尋常高等小學校
 大桑尋常高等小學校
 水深尋常高等小學校
 鶴瀨尋常高等小學校
 大越尋常高等小學校
 川邊尋常高等小學校
 桶沼尋常高等小學校
 利島尋常高等小學校
 東尋常高等小學校
 原道尋常高等小學校
 元和尋常高等小學校
 岩槻尋常高等小學校

豐春尋常高等小學校
 內牧尋常高等小學校
 粕壁尋常高等小學校
 川通尋常高等小學校
 武里尋常高等小學校
 柏崎尋常高等小學校
 和土尋常高等小學校
 新和尋常高等小學校
 百岡尋常高等小學校
 河合尋常高等小學校
 黒須尋常高等小學校
 慈恩寺尋常高等小學校
 青森尋常高等小學校
 連田尋常高等小學校
 間戸尋常高等小學校
 櫻井尋常高等小學校
 新方尋常高等小學校
 増林尋常高等小學校
 大袋尋常高等小學校
 萩島尋常高等小學校
 出羽尋常高等小學校
 蒲生尋常高等小學校
 川柳尋常高等小學校
 八枝尋常高等小學校
 八幡尋常高等小學校
 浦止尋常高等小學校
 大相模尋常高等小學校
 越ヶ谷尋常高等小學校
 大澤尋常高等小學校
 太田尋常高等小學校

久喜尋常高等小學校
 野宮尋常高等小學校
 清久尋常高等小學校
 江面尋常高等小學校
 杉岡尋常高等小學校
 小林尋常高等小學校
 高橋尋常高等小學校
 三箇尋常高等小學校
 大山尋常高等小學校
 藤田尋常高等小學校

吉田第二小學校
 八代尋常高等小學校
 高野尋常高等小學校
 杉戸尋常高等小學校
 田宮尋常高等小學校
 田宮南小學校
 櫻井小學校
 實珠花小學校
 富多小學校
 山田高等小學校
 人間小學校

藤岡中學校
 沼田小學校
 高崎高等實踐女學校
 群馬縣第四學區內各小學校
 赤堀小學校
 大湖小學校
 水上小學校
 荒砥第二小學校
 太田小學校
 伊勢崎商業學校
 池田小學校
 關志小學校
 六合小學校
 沼田高等女學校
 川田小學校
 高岡高等家政女學校
 高岡高等家政女學校
 下川小學校
 駒形小學校
 永明小學校
 長野原小學校
 伊勢崎小學校
 飯上小學校
 飯林小學校
 飯林小學校
 名和尋常高等小學校
 岩島尋常高等小學校
 高崎市內各小學校
 芝根小學校
 佐野小學校
 中山小學校

新高尾小學校
 生井小學校
 人須川小學校
 磯邊小學校
 花輪小學校
 藤立官立學校
 勢多郡第二學區內各小學校
 上川小學校
 荒砥第一小學校
 伊勢崎高等女學校
 佐波郡東小學校
 桐生高等家政女學校
 荒井小學校
 女子師範學校
 碓氷郡內各小學校
 群馬縣第二學區內各小學校
 富野小學校
 富野中學校
 藤岡高等女學校
 藤岡高等女學校
 名久田小學校
 前橋商業學校
 長野小學校
 上野小學校
 毛里田實科女學校
 大岡々實科女學校
 山田郡內各小學校
 岩鼻小學校
 高山小學校

赤見第二小學校
三和尋常高等小學校
柳原小學校
鳥山尋常高等小學校
絹尋常南校
久下田尋常高等小學校
玉生尋常高等小學校
進川尋常高等小學校
黒田原尋常高等小學校
日光第二尋常高等小學校
昭和小學校
金田第三小學校
藤沼東小學校
玉生熊ノ木小學校
野崎尋常高等小學校
城山尋常高等小學校
羽黒尋常高等小學校
羽黒第一小學校
羽黒第二小學校
平石第二小學校
平石青年學校
足利市實業學校
足利幼稚園
大山田尋常高等小學校
長沼尋常高等小學校
鳥山實踐女學校
小山第二尋常高等小學校
國分寺尋常高等小學校
田沼第三小學校
伊王野尋常高等小學校

今市實業女學校
東大蘆尋常高等小學校
東大蘆青年學校
野崎田小學校
日光高等女學校
川西尋常小學校
久野尋常高等小學校
宇都宮女子高等職業學校
津木小學校
國本尋常高等小學校
委北小學校
吾妻尋常高等小學校
茂木小井戸小學校
野崎石上小學校
城山南小學校
牧野小學校
矢又尋常小學校
佐野第一尋常高等小學校
田沼第五尋常小學校
西大蘆尋常小學校
宇都宮中學校
寺子尋常小學校
日光尋常小學校
西水沼尋常小學校
矢野實踐女學校
真岡高等女學校
赤見第一尋常小學校
宇都宮戸葉校
馬頭尋常高等小學校
中村尋常高等小學校

引田尋常小學校
壬生尋常高等小學校
植野第一尋常小學校
大原間尋常高等小學校
豐田尋常高等小學校
大澤尋常小學校
大谷尋常高等小學校
國本西尋常小學校
本郷尋常高等小學校
赤川尋常高等小學校
平石第三小學校
瑞穂野尋常高等小學校
瑞穂野尋常小學校
平石第一小學校
平石第二小學校
城山西尋常小學校
植野尋常高等小學校
佐野第二尋常高等小學校
藤沼尋常小學校
小口尋常小學校
田沼尋常高等小學校
木幡尋常小學校
祖母井尋常高等小學校
泉川尋常小學校
中川尋常高等小學校
間々田小學校
間々田實業校
鹿沼尋常小學校
宇都宮官立學校
宇都宮幼稚園

吉田尋常小學校
小山實業學校
猪倉尋常小學校
富屋青年學校
富屋小學校
藤岡尋常高等小學校
矢野尋常小學校
昭和小學校
日光第一尋常高等小學校
赤津第二小學校
上三川尋常高等小學校
田沼第二小學校
委尋常小學校
押上尋常小學校
那珂尋常高等小學校
北大洞尋常小學校
橫林尋常小學校
西方尋常高等小學校
小貫尋常小學校
赤津第一小學校
稻葉尋常高等小學校
宇都宮市南實業學校
栗野第一尋常高等小學校
鍋掛尋常高等小學校
鹽原尋常高等小學校
栗田尋常高等小學校
赤津小學校
赤津青年學校
太田原中學校
金田第四小學校

那珂尋常小學校
藤岡尋常高等小學校
藤岡北尋常高等小學校
桑尋常高等小學校
常陸尋常高等小學校
高木高等實科女學校
黒野尋常小學校
黒野女子師範學校
女子師範附屬小學校
田沼尋常高等小學校
物部尋常高等小學校
清原尋常高等小學校
市場尋常高等小學校
大内尋常高等小學校
真岡尋常高等小學校
山前尋常小學校
赤羽尋常高等小學校
鮎田尋常小學校
大内尋常小學校
桑尋常高等小學校
境村學校
須藤尋常高等小學校
小野寺尋常高等小學校
吹上尋常高等小學校
橫川尋常小學校
宇都宮高等小學校
北押原尋常高等小學校
坂上尋常小學校
市第二尋常高等小學校
湯津上尋常小學校

興野尋常小學校
河又尋常小學校
名草尋常高等小學校
橫川尋常小學校
橫川青年學校
橫川尋常東校
上三川第一尋常小學校
落合東校
兩郡尋常高等小學校
兩郡青年學校
興能尋常小學校
鹿沼實科高等女學校
奈良部尋常小學校
野木高等小學校
明治尋常高等小學校
荒川尋常高等小學校
宇都宮工業學校
界尋常高等小學校
兩郡尋常小學校
田沼尋常小學校
七井尋常高等小學校
觀國尋常高等小學校
吉田尋常小學校
大山田西校
大室尋常小學校
粟米尋常高等小學校
稻澤尋常小學校
岡本尋常高等小學校
南高根尋常高等小學校
中尋常高等小學校

國府尋常高等小學校
佐久山尋常高等小學校
足尾尋常高等小學校
水室第二尋常高等小學校
大伏尋常高等小學校
益子尋常高等小學校
栗山尋常高等小學校
富山尋常高等小學校
三鴨尋常高等小學校
高林尋常高等小學校
富岡尋常小學校
德積尋常高等小學校
宇都宮東校
宇都宮實踐女學校
藤井尋常高等小學校
宇都宮西原校
大内尋常高等小學校
西那須野小學南校
金田南尋常高等小學校
宇田川尋常小學校
田中尋常小學校
委澤尋常小學校
赤野尋常小學校
新合第二尋常小學校
高山尋常高等小學校
曲畑尋常小學校
宗師寺尋常高等小學校
須賀川尋常高等小學校

大那地尋常小學校
大羽尋常小學校
阿久津尋常高等小學校
下生井尋常高等小學校
成澤尋常小學校
下江川尋常高等小學校
大山田尋常北校
宇都宮中央尋常小學校
新合第一尋常小學校
水橋尋常小學校
水橋公民青年學校
岩船尋常高等小學校
清原尋常南校
新田尋常小學校
今泉尋常小學校
大島尋常小學校
桑原尋常小學校
栃木農學校
絹尋常高等小學校
荒川尋常北校
小貝尋常小學校
絹島尋常高等小學校
藤尋常小學校
藤江尋常小學校
小百尋常小學校
落合西校
栗野第一尋常高等小學校
野上第一尋常高等小學校
飯野尋常小學校
那屋尋常高等小學校

湯津上尋常東校
西那須野尋常西校
荒川尋常西校
黒羽第一尋常高等小學校
湯津上尋常高等小學校
荒川尋常南校
狩野尋常小學校
北高根尋常高等小學校
進室尋常小學校
向田尋常小學校
大谷尋常高等北校
豐岡尋常高等小學校
藤井尋常高等北校
瀨尾尋常小學校
中宮尋常小學校
北大洞尋常南校
栗野尋常小學校
北赤塚尋常小學校
加國尋常高等小學校
清洲第二尋常高等小學校
神子内尋常小學校
原尋常小學校
北大洞尋常高等小學校
石橋尋常高等小學校
所野尋常小學校
須佐木尋常高等小學校
廣川尋常高等小學校
室ノ井尋常小學校
足利工業學校
矢野尋常高等小學校

湯水尋常小學校
足尾銅山實業學校
小山高等實踐女學校
船生尋常高等小學校
志島尋常小學校
向田尋常高等小學校
眞岡農學校
狩野尋常高等小學校
吉澤尋常小學校
上蘆尋常小學校
須賀川尋常高等小學校
富田尋常高等小學校
南押原尋常高等小學校
南押原青年學校
白久尋常小學校
下野中學校
上三川第三尋常小學校
新田尋常小學校
御厨尋常高等小學校
小山第一尋常高等小學校
新合尋常高等小學校
白澤尋常高等小學校
七合尋常高等小學校
那須村實業青年學校
水室第一尋常高等小學校
網戸尋常高等小學校
高久尋常高等小學校
足尾銅山小學校
神長尋常小學校
野上第二尋常高等小學校

安澤尋常小學校
赤井尋常小學校
兼尋常高等小學校
絹尋常北校
第三尋常小學校
小蘆尋常高等小學校
小蘆青年學校
藤田尋常小學校
小來川尋常高等小學校
關谷尋常高等小學校
毛野尋常高等小學校
大澤國民青年學校
今市尋常高等小學校
田原尋常高等小學校
三波尋常高等小學校
大内西校
片岡尋常高等小學校

箱尾第一尋常高等小學校
喜連川尋常高等小學校
寺尾尋常高等小學校
赤見尋常高等小學校
熱田尋常高等小學校
第一尋常高等小學校
田代尋常小學校
下澤尋常小學校
三箇尋常小學校
文挾尋常小學校
宇都宮尋常西校
乙畑尋常小學校
南大洞尋常高等小學校
上高根尋常高等小學校
水野尋常小學校
水野尋常高等小學校
清原尋常北校

奈良縣

七八〇、二五

奈良縣教育會報

奈良女子高等師範學校
長柄尋常高等小學校
多田尋常高等小學校
御井尋常小學校
奈良中學校

谷瀧尋常小學校
三城尋常小學校
水盛尋常小學校
甘藷尋常高等小學校
三島尋常小學校

高山市西小學校	秋津小學校	中切小學校	西上小學校	尾崎小學校	和佐小學校	門原小學校	竹原小學校	宮地小學校	湯田小學校	宮村小學校	上原小學校	高根小學校	朝日小學校	總務小學校	羽根小學校	下原小學校	中山小學校	夏原小學校	竹原小學校	下原小學校	小坂小學校	下原小學校	本原小學校	三原小學校	東原小學校	吉田小學校	鶴岡小學校		
高山市東小學校	高山市北小學校	高山市第二小學校	高山市第三小學校	高山市第四小學校	高山市第五小學校	高山市第六小學校	高山市第七小學校	高山市第八小學校	高山市第九小學校	高山市第十小學校	高山市第十一小學校	高山市第十二小學校	高山市第十三小學校	高山市第十四小學校	高山市第十五小學校	高山市第十六小學校	高山市第十七小學校	高山市第十八小學校	高山市第十九小學校	高山市第二十小學校	高山市第二十一小學校	高山市第二十二小學校	高山市第二十三小學校	高山市第二十四小學校	高山市第二十五小學校	高山市第二十六小學校	高山市第二十七小學校	高山市第二十八小學校	
高山市第二十九小學校	高山市第三十小學校	高山市第三十一小學校	高山市第三十二小學校	高山市第三十三小學校	高山市第三十四小學校	高山市第三十五小學校	高山市第三十六小學校	高山市第三十七小學校	高山市第三十八小學校	高山市第三十九小學校	高山市第四十小學校	高山市第四十一小學校	高山市第四十二小學校	高山市第四十三小學校	高山市第四十四小學校	高山市第四十五小學校	高山市第四十六小學校	高山市第四十七小學校	高山市第四十八小學校	高山市第四十九小學校	高山市第五十小學校	高山市第五十一小學校	高山市第五十二小學校	高山市第五十三小學校	高山市第五十四小學校	高山市第五十五小學校	高山市第五十六小學校	高山市第五十七小學校	高山市第五十八小學校

長野縣

二〇七〇、六〇

信濃教育會

高山市西小學校	秋津小學校	中切小學校	西上小學校	尾崎小學校	和佐小學校	門原小學校	竹原小學校	宮地小學校	湯田小學校	宮村小學校	上原小學校	高根小學校	朝日小學校	總務小學校	羽根小學校	下原小學校	中山小學校	夏原小學校	竹原小學校	下原小學校	小坂小學校	下原小學校	本原小學校	三原小學校	東原小學校	吉田小學校	鶴岡小學校		
高山市東小學校	高山市北小學校	高山市第二小學校	高山市第三小學校	高山市第四小學校	高山市第五小學校	高山市第六小學校	高山市第七小學校	高山市第八小學校	高山市第九小學校	高山市第十小學校	高山市第十一小學校	高山市第十二小學校	高山市第十三小學校	高山市第十四小學校	高山市第十五小學校	高山市第十六小學校	高山市第十七小學校	高山市第十八小學校	高山市第十九小學校	高山市第二十小學校	高山市第二十一小學校	高山市第二十二小學校	高山市第二十三小學校	高山市第二十四小學校	高山市第二十五小學校	高山市第二十六小學校	高山市第二十七小學校	高山市第二十八小學校	
高山市第二十九小學校	高山市第三十小學校	高山市第三十一小學校	高山市第三十二小學校	高山市第三十三小學校	高山市第三十四小學校	高山市第三十五小學校	高山市第三十六小學校	高山市第三十七小學校	高山市第三十八小學校	高山市第三十九小學校	高山市第四十小學校	高山市第四十一小學校	高山市第四十二小學校	高山市第四十三小學校	高山市第四十四小學校	高山市第四十五小學校	高山市第四十六小學校	高山市第四十七小學校	高山市第四十八小學校	高山市第四十九小學校	高山市第五十小學校	高山市第五十一小學校	高山市第五十二小學校	高山市第五十三小學校	高山市第五十四小學校	高山市第五十五小學校	高山市第五十六小學校	高山市第五十七小學校	高山市第五十八小學校

瀨田	住吉	常盤	里見	川口	植田	田澤	草元	八森	成森	森吉	山谷	花館	高梨	二ツ井	日新	根田	二井田	水澤	辨天	添川	和田	下郷	津城第一	小栗山	横澤
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
比立	榮内	飯内	沖田	明治	川内	藤野	南合	種梅	旭南	長木	扇木	佛田	秋田	川連	牛島	鎌田	小津	中津	南内	南内	小出	津城第二	上川	輕井澤	
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
秋田	秋田	四ツ	北橋	古館	三合	三合	大盛	心木	金木	米崎	赤手	宇津	北野	男鹿	浦田	三輪	高松	下山	宿小	旭小	沼館	岩井	澤井		
工業	高等	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	
上野	船橋	下野	大野	新野	龍野	大野	藤野	西野	山崎	新庄	入善	高野	月野	大庄	福澤	文珠	東野	針野	大野	廣野	豐野	廣野	廣野	廣野	
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	
八人	五人	西野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	豐野	
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	
音杉	大野	東野	早野	白野	宮野	南野	山野	相野	三野	上野	下野	西野	東野	中野	北野	早野	早野	早野	早野	早野	早野	早野	早野	早野	
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	

富山縣

八七九二〇

富山縣教育會報

馬庄	五百	寺田	利田	大森	高野	日中	新野	谷口	下野	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ	釜ヶ
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
尾山	田家	石田	生地	村地	大布	三布	前布	若布	浦布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	下布	
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
五ヶ	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎	宮崎
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
鍋谷	大長	仁步	室牧	川崎	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野	廣野
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
新渡	放生	二九	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡	新渡
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
大田	宮田	神代	佛生	布勢	十二	加納	上野	谷野	論野	小久	床鍋	立高	立高	立高	立高	立高	立高	立高	立高	立高	立高	立高	立高	立高	立高
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校

宇波	井波	東山見(分一)	青島	南山見	井口	高瀬	山野	城端	大谷	南田	山田	北野	下梨(分四)	東中江(分一)	西赤尾(分一)	皆津	利賀(分一)	廣塚	野尻	出町	南野	柳瀬	北野	太田	中野	油田
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
庄下	東野	五郎	中野	般若	梅野	梅野	東野	般若	石動	安樂寺	岩尾	松野	若林	正得	荒川	子孫	宮崎	石崎	砂子	土山	廣瀬	廣瀬	西太美	太美	東太美	
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
吉野	東野	津野	西野	東野	北野	水野	水野	水野	水野	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬	高瀬
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
就野	明道	住吉	米野	角野	日野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野	山野
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
氣高	大野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野	野野
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校

鳥取縣

鳥取縣教育會報

四一四二

八橋	長瀬	高野	東野	山守	成美	赤野	倉吉	上野	西野	安野	上野	三野	下野	高野	三野	上野	安野	上野	西野	上野	倉吉	赤野	成美	山守	東野	高野	八橋
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺	法勝寺
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生	藤生
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野	西野
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校
佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治	佐治
第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校	第三小學校
玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯	玉湯
小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校	小學校

島根縣

島根縣教育會報

四三九四

山口縣

一、二七四、四六

山口縣教育會報

教育關係金

厚狹高等女學校	小野田實業專修學校	岩國中學校	室積師範學校	室積高等女學校	宇部工業學校	宇部中學校	宇部農學校	阿部高等技藝女學校	柳井裁縫女學校	岩國商工業學校	關門高等洋裁學校	山口商業學校	田布施高等女學校	深川高等女學校	久賀高等女學校	下松工業學校	德山高等女學校	下關商工業學校	玖波高等實業學校	山口中學校	田部高等女學校	小野田實業專修學校	德山實業專修學校	
下關商業學校	日置農林學校	平生高等女學校	小野田高等女學校	長門工業學校	長門中學校	德山商業學校	防府高等女學校	柳井商業學校	宇部中學校	宇部高等女學校	德修實科高等女學校	田布施商業學校	安下庄中學校	多々良中學校	大津中學校	山口師範學校	柳井高等女學校	防府商業學校	下關高等女學校	宇部商業學校	下關實業學校	習成小學校		
馬木小學校	三浦小學校	平田小學校	岩國小學校	厚狹小學校	大島小學校	伊予小學校	平部小學校	久賀小學校	沖家小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校	澤部小學校
神門小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校
神門小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校
米川小學校	由津小學校	通津小學校	和津小學校	新津小學校	日津小學校	西津小學校	佐津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校
廣山小學校	黑山小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校
廣山小學校	黑山小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校

須島小學校	大向小學校	篠目小學校	高千帆小學校	奈古小學校	湯野小學校	岡野小學校	大野小學校	豐野小學校	地野小學校	御所野小學校	乙野小學校	平野小學校	大野小學校	益野小學校	中野小學校	上野小學校	神野小學校	伊野小學校	蓋野小學校	祖野小學校	福野小學校	興野小學校	柳野小學校	文野小學校	善野小學校	仁野小學校	油野小學校	
井田小學校	中津小學校	白石小學校	嘉野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校	廣野小學校
神門小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校
神門小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校	平部小學校
米川小學校	由津小學校	通津小學校	和津小學校	新津小學校	日津小學校	西津小學校	佐津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校	大津小學校
廣山小學校	黑山小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校
廣山小學校	黑山小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校	宇部小學校

教育關係金

Table listing educational institutions and their affiliations, including entries like '築上郡 岩屋高等小學校' and '同 三川高等小學校'.

教育關係金

Table listing educational institutions and their affiliations, including entries like '八女郡 日出高等小學校' and '同 可也高等小學校'.

大分縣

一、二一五、〇七

大分縣教育會

Table listing specific educational institutions within Oita Prefecture, such as '大分縣師範學校' and '大分縣女子師範學校'.

昭和十四年四月十日 印刷
昭和十四年四月十五日 發行

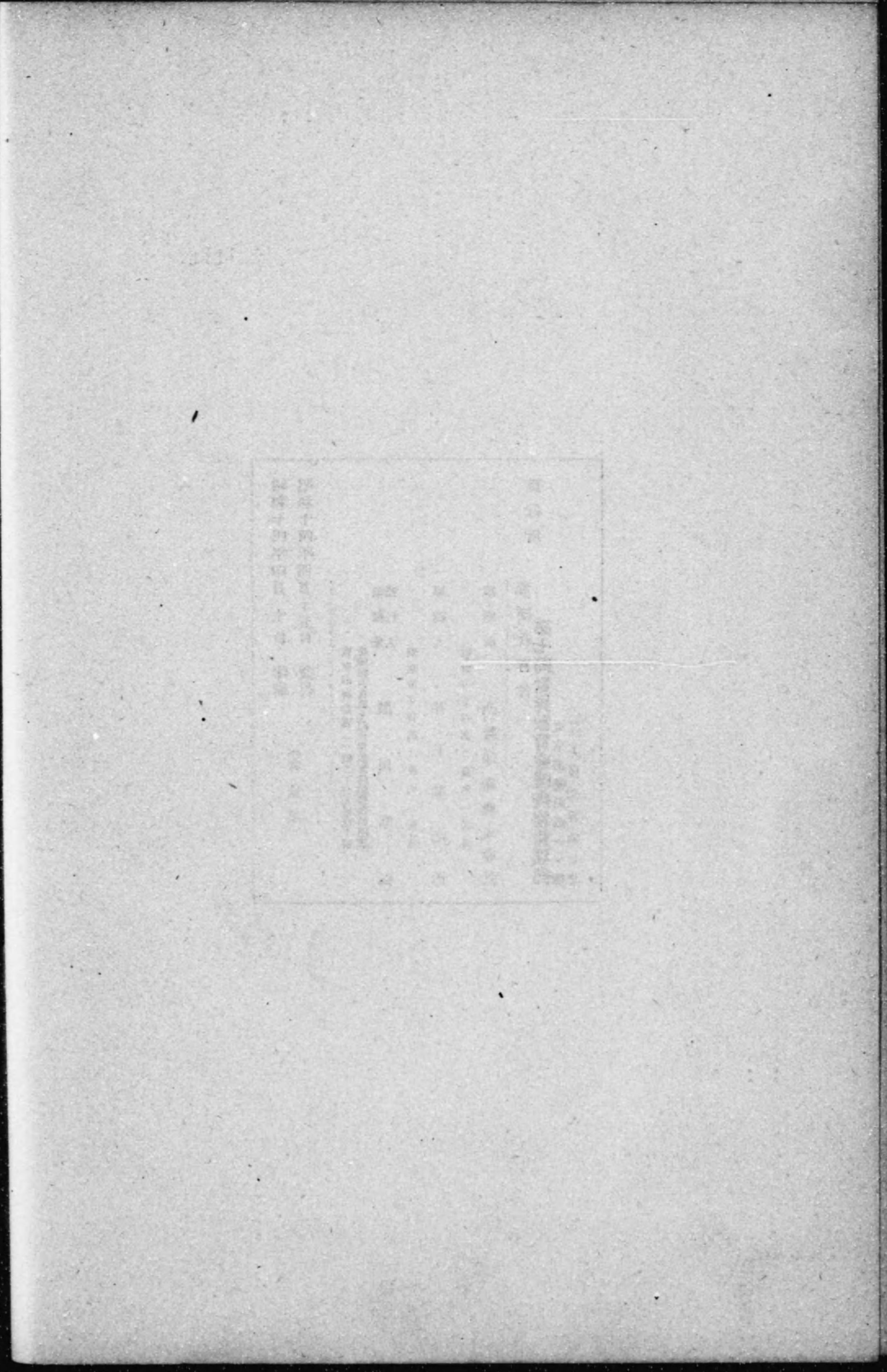
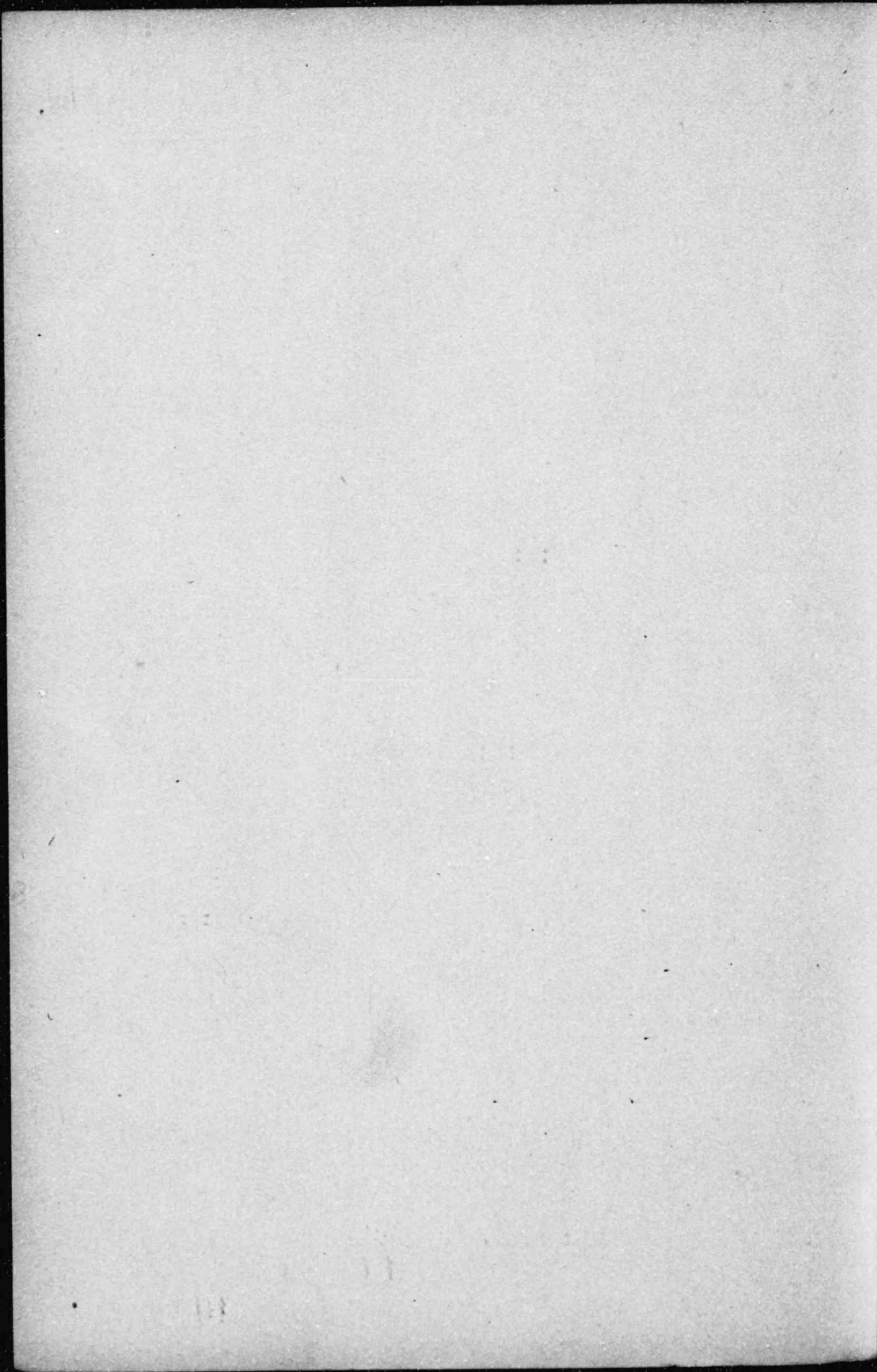
(非賣品)

東京市神田區一ツ橋二丁目九番地七號
帝國教育會第七回世界教育會議事務局
發行人 兼 編輯人 黑田幸弘

東京市下谷區二長町一番地
印刷人 井上源之丞

東京市下谷區二長町一番地
印刷所 凸版印刷株式會社

發行所 帝國教育會
第七回世界教育會議事務局
東京市神田區一ツ橋
二丁目九番地七號





凸版印刷株式會社印刷